

3.個別事業評価シート

概要版選定用 A/B+抜粋版

課題Ⅰ		男女が共に活躍できる環境づくり						
方針1		政策・方針決定過程への女性の参画の拡大						
方 策	方策の方向性	事業 番号	事業	担当課	具体的な事業	指標名	目標年度 (令和7年度)	令和5年度実績
市における女性の参画拡大	女性の登用拡大と女性職員のキャリア形成を支援する研修を実施する	1	市職場における管理監督職への女性の積極的登用	人事課	市職場における管理監督職への女性の積極的登用	課長補佐級以上(6級以上)の職に占める女性の割合	22.0%	22.8%
		2	市職場における女性職員のキャリア形成のための研修	人事課	研修の実施	-	-	・「仕事と家庭の両立支援セミナー(イクボス研修)」を実施し、70人が修了した。 ・「女性職員のキャリア形成支援研修」を実施し、19人が修了した。
		3	女性消防吏員の採用拡大に向けた積極的な広報等の取組	消防局総務課	職員採用説明会にて女性消防吏員の活躍をアピール	採用試験受験者数における女性受験者数の割合	8.0%	令和5年度採用試験において、受験者174人のうち、女性は17人で全体の9.8%であった。 取り組みとして、採用説明会及びホームページにて女性の活躍やライフステージに応じた働き方などについて紹介した他、ふなばしCITYNEWSにて女性消防吏員の活躍について紹介し、放送した動画をホームページの採用ページにアップし、広報した。
		3	女性消防吏員の採用拡大に向けた積極的な広報等の取組	消防局総務課	職員募集ポスターやチラシを作成する際、積極的に女性消防吏員を起用し、女性活躍をPR	採用試験受験者数における女性受験者数の割合	8.0%	令和5年度採用試験において、受験者174人のうち、女性は17人で全体の9.8%であった。 取り組みとして、ホームページに消防局における女性活躍推進についての掲載を実施した。
	市が設置する審議会等への女性の参画を積極的に推進する	4	市が設置する審議会等への積極的な女性委員の参画の促進	市民協働課	情報誌等での啓発	審議会等における女性委員の登用率	40.0%	30.7% 情報誌「fえふ」に記事を掲載し、男女間の格差解消のために公募委員の女性参加を呼びかけた。 回数:1回
		4	市が設置する審議会等への積極的な女性委員の参画の促進	総務法制課	女性委員の積極的な登用の推進	-	-	船橋市附属機関等の設置及び運営に関する指針の規定内容(委員に占める女性の比率は30%以上に高めるように努める)について、各課へ周知した。 【女性比率実績】30.7%(令和5年4月1日時点)
		5	農業委員会委員への積極的な女性委員の参画の促進	農業委員会事務局	農業委員会広報誌(農委だより)での周知	発行回数	2回	7月に3人の女性農業委員による座談会を実施し、その内容(女性農業従事者の活躍等)を9月と1月の2回に渡り、本市農業委員会広報誌にて掲載し、周知を行った。
		5	農業委員会委員への積極的な女性委員の参画の促進	農業委員会事務局	関連団体への協力依頼	-	-	7月に農業団体等から推薦を受けて就任した農業委員は、女性登用の重要性を農業協同組合の関連団体等と共有し、女性の登用に向けて積極的な働き掛けを行った。
		5	農業委員会委員への積極的な女性委員の参画の促進	農業委員会事務局	農業委員会委員との情報連携	-	-	現農業委員の後継者となり得る女性の農業従事者について、日頃から情報連携できる体制を整えるとともに、人材の掘り起こしを積極的に行った。
	企業における女性の参画拡大	6	企業における女性の活躍推進のための講座等の開催	市民協働課	講座等の開催	定員に対する参加人数の割合	90.0%	96.7%(全体の割合) ・女性向け再就職支援セミナー(商工振興課 共催) 定員30人 参加者28人(93.3%) ・女性のためのWordで作るはじめてのポスター講座 定員8人 参加者8人(100%)
		6	企業における女性の活躍推進のための講座等の開催	商工振興課	セミナー開催	開催回数	1回	IKEA Tokyo-Bayお仕事説明会「誰もが自分らしく暮らせる社会のために企業ができること」 【内訳】 23人参加(7/12実施 定員20人)
地域における女性の参画拡大	女性の社会参加促進のための支援を行う	12	公民館での講座の開催(女性の社会参加に資する講座)	公民館	公民館での講座の開催(女性の社会参加に資する講座)	事業数 延参加者数	30事業 延3,000人	婦人学級といった女性対象の講座を開催した。 1事業開催、延666人参加。

【☆男女共同参画に配慮した項目☆】

- 1 男女の個人としての尊厳を重んじ、男女の差別を無くすことに配慮した
- 2 固定的性別役割分担意識や性による無意識の思い込みが男女の社会参加に影響しないよう配慮した
- 3 男女が政策、方針又は事業の企画立案及び決定に共同して参画する機会に配慮した
- 4 家族を構成する男女が家庭生活との両立ができるように配慮した

【○方策の観点からの自己評価○】

- A 効果があった
- B+ ほぼ効果があった
- B ある程度効果があった
- C あまり効果がなかった

資料5

☆項目	○自己評価	評価した理由	今後の課題・予定	今後の進め方	令和4年度実績【前年度】
1,2,3	A	目標年度より早く目標値に達することができたため。	引き続き、女性職員の管理監督職への積極的登用と併せ、キャリア形成の支援も検討していきたい。	継続	21.0%
1,2,4	B+	管理職と女性職員それぞれに女性職員のキャリア形成に繋がる研修を実施することができた。	・「女性職員のキャリア形成支援研修」の参加者数をより増加させるため、実施日程や内容の見直しを検討する。	継続	・「仕事と家庭の両立支援セミナー」を実施し、101人が修了した。 ・「女性のキャリア形成支援研修(育児休業復帰予定者交流会)」を実施し、7人が修了した。
1,2	A	昨年度に引き続き、女性の受験者の割合が増え、予定よりも早く目標数値に達したため。 令和3年度 4. 2% 令和4年度 5. 5%	女性の活躍推進について、今後も継続して活動を実施する。 また、外部にて開催される採用説明会へ積極的に参加をする。	継続	令和4年度採用試験において、受験者145人のうち、女性は8人で全体の5.5%であった。 取り組みとして、採用説明会で女性の活躍やライフステージに応じた働き方などについて紹介した他、消防庁主催の女子学生の採用イベントに出展するなど、採用広報を実施した。
1,2	A	昨年度に引き続き、女性の受験者の割合が増え、予定よりも早く目標数値に達したため。 令和3年度 4. 2% 令和4年度 5. 5%	採用ポスター等、女性の起用を積極的に行う。	継続	令和4年度採用試験において、受験者145人のうち、女性は8人で全体の5.5%であった。 取り組みとして、船橋市ホームページに消防局における女性活躍推進についての掲載を実施した。
1,2,3	B+	目標には達しなかったものの、情報誌「fえふ」を配布したことにより一定の周知ができたため。	今後も情報誌等を通じて広く市民の方々に啓発活動を行い、審議会等における女性委員の登用率増加につなげていきたい。	継続	31.6% 情報誌「fえふ」にて、アンコンシャス・バイアスの記事を掲載し、男女間の格差解消のために公募委員の女性参加を呼びかけた。 回数:1回
3	B+	附属機関等の委員の選任においては、女性委員比率の向上について各所属への啓発を行ったことで、一定の効果があったと考えられる。	今後も各所属への周知を行う。	継続	船橋市附属機関等の設置及び運営に関する指針の規定内容(委員に占める女性の比率は30%以上に高めるように努める)について、各課へ周知した。 【女性比率実績】31.6%
2,4	A	目標が達成でき、農業委員会委員への積極的な女性委員の参画の促進に資することができたため。	引き続き、農業委員会広報誌での周知を行うことにより、国の「第5次男女共同参画基本計画」に掲げている農業委員会委員に占める女性の割合30%、また本市の「第4次船橋市男女共同参画計画」に掲げている市の審議会等の女性委員の割合40%の目標達成を目指したい。 【参考 本市農業委員会委員(14人)に占める女性の割合30%→5人、40%→6人】	継続	8月と1月の年2回、農業委員会広報誌(農委だより)にて女性委員や女性農業従事者の活躍について周知を行った。
2,4	A	農業関係者が集まる機会に、女性登用の必要性等を伝えることが出来、意識の共有を図ることが出来たため。	引き続き、関連団体への協力依頼を行うことにより、国の「第5次男女共同参画基本計画」に掲げている農業委員会委員に占める女性の割合30%、また本市の「第4次船橋市男女共同参画計画」に掲げている市の審議会等の女性委員の割合40%の目標達成を目指したい。 【参考 本市農業委員会委員(14人)に占める女性の割合30%→5人、40%→6人】	継続	女性委員の重要性を農業協同組合等の関連団体と共有し、次期改選に向け積極的な推薦依頼を行った。
2,4	A	農業関係者が集まる機会に、女性登用の必要性等を伝えることが出来、意識の共有を図ることが出来たため。	引き続き、農業委員会委員との情報連携を行うことにより、国の「第5次男女共同参画基本計画」に掲げている農業委員会委員に占める女性の割合30%、また本市の「第4次船橋市男女共同参画計画」に掲げている市の審議会等の女性委員の割合40%の目標達成を目指したい。 【参考 本市農業委員会委員(14人)に占める女性の割合30%→5人、40%→6人】	継続	現農業委員会委員の後継者となり得る女性の農業従事者について、日頃から情報連携できる体制を整えるとともに、人材の掘り起こしを積極的に行った。
1,2,3,4	A	目標を達成することができたうえに、9割以上の参加者が「参考になった」「大変参考になった」と回答したため。	今後も講座を通じて、企業における女性の活躍推進に資する情報の周知啓発を進める。	継続	96.7% 女性のための再就職支援セミナー(商工振興課 共催) 定員30人 参加者29人
1,2,3,4	A	目標に達しているため。	次年度も引き続きイベントを開催する。	継続	IKEA Tokyo-Bayお仕事説明会「働き方の数だけ自分らしさがある」 【内訳】 36人参加(6/4実施 定員100人)
1,2,4	B+	幅広い年代の女性たちに有意義な講座が開催できた。	参加者からのアンケート等を踏まえながら、今後も女性の社会参加促進に資する講座を実施していきたい。	継続	婦人学級・ヨガといった女性対象の講座を開催した。 2事業開催、延297人参加。

概要版選定用 A/B+抜粋版

方針2雇用等における男女共同参画の推進と仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)

方 策	方策の方向性	事業番号	事業	担当課	具体的な事業	指標名	目標年度 (令和7年度)	令和5年度実績
多様で柔軟な働き方を可能にするための支援と制度の周知	多様で柔軟な働き方や各種法令・制度の周知を図り、学習機会を提供する	13	市職場における育児・介護休業制度の周知・普及	人事課	市職場における育児・介護休業制度の周知・普及	周知・普及	100%	100% ・人材育成室が発行する「仕事と子育て応援パンフレット」の内容を更新し、周知を図った。(令和5年4月) ・仕事と家庭の両立セミナーにて管理職に向けて育児休業の関連制度について説明を行い周知を図った。(令和6年2月) ・介護休業については「勤務時間・休暇実務の手引」にて周知した。 ・対象者が問い合わせた際、その都度希望者に必要なパンフレットを配布した。
		16	男女雇用機会均等法、育児・介護休業法等の制度の周知	地域保健課	母子健康手帳交付及び保健師等による妊婦面接相談	妊婦面接率	面接率100%	妊娠届出による母子健康手帳交付者数 4,351人 妊婦相談数 4,351人(夫や実母による面接も含む) 面接率100%
		17	女性の起業・再就職を支援するための講座等の開催	商工振興課	起業を支援するためのセミナー開催	平均参加者数	30人	「ふなばし起業スクールオープンセミナー」参加者:1回平均26人 【内訳】 第1回 37人参加(7/15実施 定員50人) 第2回 15人参加(10/7実施 定員50人)
		17	女性の起業・再就職を支援するための講座等の開催	商工振興課	再就職を支援するためのセミナー開催	平均参加者数	20人	再就職支援セミナー参加者28人
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進	ワーク・ライフ・バランスの必要性について、企業等への意識啓発や学習機会を提供する	19	ワーク・ライフ・バランス推進のための企業・雇用主向け講座等の開催	市民協働課	講座等の開催	定員に対する参加人数の割合	90.0%	92.5% 仕事に役立つセミナー「信頼関係をつくる会話とは」 定員40人 参加者37人
		19	ワーク・ライフ・バランス推進のための企業・雇用主向け講座等の開催	商工振興課	セミナー開催	開催回数	1回	IKEA Tokyo-Bayお仕事説明会「誰もが自分らしく暮らせる社会のために企業ができること」 【内訳】 23人参加(7/12実施 定員20人)
	男性の育児休業の取得を促進する	23	市職場における男性の育児休業取得促進	人事課	市職場における男性の育児休業取得促進	取得率	85% (1週間以上取得) ※R5.8に40%から85%に引き上げ	65.9% ・人材育成室が発行する「仕事と子育て応援パンフレット」の内容を更新し、周知を図った。(令和5年4月)
	ハラスメントに関する認識を深め、被害防止に向けて情報提供や意識啓発を行う	26	市職場におけるハラスメント防止のための研修	人事課	研修の実施	-	-	合計:503人 ・ハラスメント防止研修:266人 ・コンプライアンス研修:237人

【☆男女共同参画に配慮した項目☆】

- 1 男女の個人としての尊厳を重んじ、男女の差別を無くすことに配慮した
- 2 固定的性別役割分担意識や性による無意識の思い込みが男女の社会参加に影響しないよう配慮した
- 3 男女が政策、方針又は事業の企画立案及び決定に共同して参画する機会の確保に配慮した
- 4 家族を構成する男女が家庭生活との両立ができるように配慮した

【○方策の観点からの自己評価○】

- A 効果があった
- B+ ほぼ効果があった
- B ある程度効果があった
- C あまり効果がなかった

資料5

☆項目	○自己評価	評価した理由	今後の課題・予定	今後の進め方	令和4年度実績[前年度]
1,2	B+	全職員に情報が共有されるよう配慮し、パンフレットを用意し普及を行ったため一定の効果があった。	介護休業については今後取得する職員が増加することが見込まれることから、介護休業制度に特化した制度の周知を行うなど、一層の対策を引き続き検討したい。	継続	100% ・育児休業等の手続等に関する規則など、育児休業制度等について一部改正を行い、当該改正内容を各所属に周知するよう通知した。(令和4年10月7日付け) ・人材育成室が発行する「仕事と子育て応援パンフレット」の内容を2度更新し、周知を図った。(令和4年6月及び10月) ・介護休業については「勤務時間・休暇実務の手引」にて周知。 ・対象者が問い合わせた際、その都度希望者に必要なパンフレットを配布した。
4	A	母子健康手帳交付時に、妊婦および夫・パートナーと面接を実施し、妊娠中から産後の仕事や家庭との両立等を含む、様々な心配や困りごとに対し、他機関と連携しながらタイムリーに必要な情報提供や支援を行えているため。	今後も妊娠初期に実施する母子健康手帳交付時に妊婦や妊婦の夫に対し、妊娠中から産後の仕事や家庭との両立等を含む、様々な心配や困りごとに対し、他機関と連携しながらタイムリーに必要な情報提供(妊婦の受けられる支援や夫の育児休業等)や支援を行っていく。	継続	妊娠届出者数 4,512人 妊婦相談数 4,512人(夫や実母による面接も含む) 面接率100%
1,2,3,4	B+	目標に近い参加があり、参加者の満足度も概ね高かったため。	次年度以降も引き続きセミナーを開催していく。	継続	「ふなばし起業スクールオープンセミナー」参加者:1回平均21人 【内訳】 第1回 30人参加(7/16実施 定員50人) 第2回 12人参加(10/2実施 定員50人)
1,2,3,4	A	目標人数を上回ったため。	次年度以降も引き続きセミナーを開催していく。	継続	再就職支援セミナー参加者 29人
1,2	A	目標を達成することができたうえに、ほとんどの参加者が「参考になった」「大変参考になった」と回答したため。	今後も講座を通じて、ワーク・ライフ・バランス推進のための企業・雇用主向け講座の提供を進める。	継続	122.5% 暮らしが整う！簡単片づけ講座～仕事にも役立つ整理のコツ～ 定員40人 参加者49人
1,2,3,4	A	目標に達しているため。	次年度も引き続きセミナーを開催していく。	継続	IKEA Tokyo-Bayお仕事説明会「働き方の数だけ自分らしさがある」 【内訳】 36人参加(6/4実施 定員100人)
1,2	B+	昨年より取得率が向上(51.4%→65.9%)しているため、一定の効果があったと思われる。	より一層育児休業取得について所属の上司や同僚への理解促進と、取得予定者への制度周知・普及に努めたい。	継続	51.4% ・人材育成室が発行する「仕事と子育て応援パンフレット」の内容を2度更新し、周知を図った。(令和4年6月及び10月) ・配偶者の妊娠・出産等を申し出た職員に対して、育児休業等の制度の周知を各所属においても行うほか、確認書により育児休業取得の意向確認を行うこととした。(令和4年6月1日付)
1	A	講義だけでなく、ロールプレイングなどを実施するなど実践的な内容であり、高い研修効果が認められた。	令和4年度をもって全管理・監督職の受講が完了した。ハラスメントやコンプライアンスに関しては、研修を1度受講すれば、絶対に起きないというわけではない為、継続して研修等を実施し、防止していくことが課題であると考える。	継続	合計:434人 ・ハラスメント防止研修:266人 ・コンプライアンス研修:168人

概要版選定用 A/B+抜粋版

課題Ⅱ

安全・安心な暮らしの実現

方針3

誰もが安心して暮らせる環境の整備

方 策	方策の方向性	事業 番号	事業	担当課	具体的な事業	指標名	目標年度 (令和7年度)	令和5年度実績
生活上の 困難に直面する女性等への 支援	ひとり親家庭等 に対して、自立の ための支援を行 う	28	ひとり親家庭等 に対する就業自 立支援事業	こども家庭 支援課	パソコン技能習得 講習 就職準備・離転職 セミナー 資格取得講習会	受講人数	260人	126人
		28	ひとり親家庭等 に対する就業自 立支援事業	こども家庭 支援課	高等職業訓練促進 給付金	受給人数	15人	12人
		28	ひとり親家庭等 に対する就業自 立支援事業	こども家庭 支援課	自立支援教育訓練 給付金	受給人数	10人	9人
		28	ひとり親家庭等 に対する就業自 立支援事業	こども家庭 支援課	母子・父子自立支 援プログラム	策定件数	50件	33件
		29	母子・父子自立 支援員によるひ とり親家庭の相 談	こども家庭 支援課	母子・父子自立支 援員によるひとり 親家庭の相談	相談件数	8,000件	8,113件(母子7,715件・父子398件)
		30	母子生活支援施 設での保護・支 援	こども家庭 支援課	母子生活支援施設 での保護・支援	-	-	母子生活支援施設への入所事業 R5.4.1現在2世帯
		31	養育費の取り決 め等を促進させ る周知・啓発や 支援	こども家庭 支援課	養育費に係る法律 相談	相談人数	96人	61人
		31	養育費の取り決 め等を促進させ る周知・啓発や 支援	こども家庭 支援課	養育費等に係る周 知啓発セミナー	受講人数	40人	9人
		31	養育費の取り決 め等を促進させ る周知・啓発や 支援	こども家庭 支援課	公正証書等作成補 助制度	受給人数	20人	28人

【☆男女共同参画に配慮した項目☆】

- 1 男女の個人としての尊厳を重んじ、男女の差別を無くすことに配慮した
- 2 固定的性別役割分担意識や性による無意識の思い込みが男女の社会参加に影響しないよう配慮した
- 3 男女が政策、方針又は事業の企画立案及び決定に共同して参画する機会の確保に配慮した
- 4 家族を構成する男女が家庭生活との両立ができるように配慮した

【○方策の観点からの自己評価○】

- A 効果があった
- B+ ほぼ効果があった
- B ある程度効果があった
- C あまり効果がなかった

資料5

☆項目	○自己評価	評価した理由	今後の課題・予定	今後の進め方	令和4年度実績[前年度]
4	A	パソコン技能習得講習については、参加率や受講者のアンケート調査等のニーズを踏まえて、日程やコース数、コース内容を見直し事業を実施しており、講習後アンケートでは高い満足度をいただいている。また、就労や転職に結びつくなどひとり親家庭等の生活の安定に寄与するものとなっていることから十分効果があったと考えている。 セミナーについては、例年実施しているライフプランセミナーに加え、アンケートで希望の多かった話し方セミナーや不登校のこどもがいる方向けのセミナー、また、包括連携協定を結んでいる「花王」と連携し、就職活動や仕事にもつかえるメイクの仕方を学べるセミナーを実施したことから、昨年度と比較し開催回数と参加者が増加している。	パソコンスキルについては、キーボード操作から学びたいという方とビジネススキルとして身につけたいという方まで、レベルや要望にも開きがあることから、より就職・転職に役立つ内容のコースとすること、また、参加者数が減少していることから、より利用しやすい講習として周知することが課題。 また、申込人数が少ないセミナーについては、内容等を検討する必要がある。	継続	109人
4	A	看護師・准看護師など資格取得と資格取得後の高い就職率で確実に収入の向上と安定が見込めることから効果的な事業である。 修業に数年かかることから本人の決意と家庭内の調整が必須であり、誰でもできるものではないが、本事業に附随して利用可能な千葉県社会福祉協議会の貸付制度も充実させており周知が広がっていることもあり、安定的な実績を残していることから、十分効果があったと考えている。	職業に直結する資格取得は将来のことを考える上で有効な選択肢であるものの、通学等のために現在の仕事を退職する、学費を立立てるなどの準備が必要になること、給付金の受給にあたっては毎月の手続きが発生するなど継続的な関わりが必要となることから、相談に関わる母子・父子自立支援員には事業について相談者のライフプランに沿った丁寧な説明をするスキルが求められる。	継続	16人
4	A	給付金の支給割合の引き上げやハローワークの教育訓練給付金と併給可能となったことなど制度の充実に加え、ハローワークでも周知を行っていただいていることから、件数は増加傾向となっている。初任者研修→実務者研修→介護支援専門員といったスキルアップなど、資格取得により同じ職場であっても給料が上がるなどより良い条件での就労を達成していることから、十分効果があったと考えている。	令和6年8月から対象者の変更(児童扶養手当受給相当の所得要件を撤廃)が国で予定されており対象が拡大となることから、周知方法を検討する。	拡大	7人
4	A	プログラム策定のためには、最低2回プログラム策定員との面談が必要であり、信頼関係がないと実績の上がらない事業である。このため、ハローワーク経験のあるプログラム策定員を配置するなど、体制の充実に努め、安定的な実績を残しており十分効果があったと考えている。	令和6年度中に児童扶養手当の所得要件が撤廃され対象者の拡大が国で予定されていることから、これまでの支援方法や周知方法を再度検討し、制度活用の推進を図っていく。	拡大	30件
4	A	6人の母子・父子自立支援員を配置し、母子家庭の母または父子家庭の父が就業と育児の両立ができるように必要な助言を行っている。また、関連機関を案内しており、生計維持が困難な家庭を支援に結び付けるなど安定した家庭生活のための相談支援を実施している。また、多忙なひとり親のニーズに応えるため、相談窓口を母子・父子福祉センター、船橋駅前総合窓口センター(毎月第2土曜日13時～17時と第4水曜日17時半～20時まで)にも設け、予約制で相談を受けつけている。 以上のようなワンストップでの相談や時間外での相談を実施することで相談は増えており、十分効果があったと考えている。	ひとり親家庭等の相談をワンストップで受けるこの事業は、自立支援員に経済的支援から就労・子育てに至るまでの各種制度に関する幅広い知識、関係機関と連携するためのコミュニケーション力、さらにはひとり親家庭等の悩みに寄り添い支援するスキル等が必要であり、自立支援員の資質向上が課題となっている。	継続	9,002件(母子8,671件・父子331件)
4	A	母子保護の必要な母子については、DV等により県外施設へ委託するケースも含めて適切に保護することができている。 また、母子生活支援施設への入所にあたっては、個々の事情をよく聞き取り母子の自立に向けた生活支援ができるよう、施設との連携支援を行うとともに、退所に向けた定期的な面談を行い、自立の促進を図ることができたことから、十分効果があったと考えている。	DV等により市外・県外施設へ母子保護を委託すべきケースの場合には、県外施設の空き状況や本人が見学・面談の上、入所を希望することが条件となることから、県外施設との関係構築が重要。	継続	母子生活支援施設への入所事業 R4.4.1現在5世帯
4	A	女性弁護士による法律相談を無料で実施することで、離婚前から養育費等にかかる専門的な手続き等を相談できる体制を整備しており、養育費の確保に寄与していることから十分効果があったと考えている。	令和5年度に実施した「船橋市子ども・子育て支援に関するアンケート調査」の結果によると、養育費や親子交流の取り決めを行っている世帯は約半数であり、養育費の受給状況や親子交流の実施状況も十分に進んでいないことが課題である。	継続	78人
4	A	令和5年度は「養育費等に係る周知啓発セミナー」として、ひとり親のセミナーにひとり親同士の情報交換の場を設け、別居する親を対象とした事業はセミナーではなく相談会を実施するなど、実施内容の見直しを行い参加者の満足度は高いことから、十分効果があったと考えている。	令和5年度に実施した「船橋市子ども・子育て支援に関するアンケート調査」の結果によると、養育費や親子交流の取り決めを行っている世帯は約半数であり、養育費の受給状況や親子交流の実施状況も十分に進んでいないことが課題である。	継続	7人
4	A	公正証書等を作成する際の費用を補助することによって、養育費等の取り決めに促すことで養育費の確保に寄与していることから十分効果があったと考えている。	令和5年度に実施した「船橋市子ども・子育て支援に関するアンケート調査」の結果によると、養育費や親子交流の取り決めを行っている世帯は約半数であり、養育費の受給状況や親子交流の実施状況も十分に進んでいないことが課題である。令和6年度からADR(裁判外紛争解決手続)の利用にかかる費用の助成を実施する。	拡大	33人

概要版選定用 A/B+抜粋版

方 策	方策の方向性	事業 番号	事業	担当課	具体的な事業	指標名	目標年度 (令和7年度)	令和5年度実績
生活上の 困難に直面する女性等への 支援	ひとり親家庭等 に対して、自立の ための支援を行 う	31	養育費の取り決 め等を促進させ る周知・啓発や 支援	こども家庭 支援課	面会交流支援事業 補助制度	利用件数	4件	7件
		32	女性の起業・再 就職を支援する ための講座等の 開催	商工 振興課	起業を支援するた めのセミナー開催	平均参加者数	30人	「ふなばし起業スクールオープンセミナー」参加者:1回平均26人 【内訳】 第1回 37人参加(7/15実施 定員50人) 第2回 15人参加(10/7実施 定員50人)
		32	女性の起業・再 就職を支援する ための講座等の 開催	商工 振興課	再就職を支援する ためのセミナー開 催	平均参加者数	20人	再就職支援セミナー28人
	若年無業者等が 経済的に自立す ることができる ように就労・学習 支援を行う	33	住居確保給付金 の支給(生活困 窮者自立支援制 度)	地域 福祉課	住居確保給付金の 支給	支給延月数	324月	159月
		34	学習支援事業 (生活困窮者自 立支援制度)	こども家庭 支援課	学習支援事業	参加者数 進学率	360人 100%	303人 100%
		35	就労準備支援事 業(生活困窮者 自立支援制度)	地域 福祉課	就労準備支援事業	利用件数 就労者数	11件 3人	利用件数 11件 就労者数 5人
	困難を抱える人 への、多様な主 体間の連携によ る支援を行う	37	就労支援事業	生活 支援課	就労支援事業	被保護者就労支 援事業に参加し、 就労に繋げた者 の数	40人	39人
性の多様 性に関する理解の 促進と支 援	性的少数者への 理解の促進を図 る	39	リーフレット等 による周知	市民 協働課	リーフレット等の配 布	リーフレット配布 等による周知回 数	3回	4回 ・市民向け周知:人権ポケットブック「セクシュアル・マイノリティと人権」 の配布 6,000部(市内中学生1学年等) ・パートナーシップ・ファミリーシップ制度周知用チラシ 5,500部(うち、R5年度に1,900部配布) ・市職員向け周知:令和5年度新規採用職員および会計年度任用職員向 けにeラーニング実施でテキストとして周知 ・LGBT啓発に関するポスターを展示 イオンモール船橋 (11月1日～11月9日)、フェイスビル(6月16日～7 月3日)
		40	性的少数者の理 解のための教職 員研修	総合教育 センター	教職員を対象とし た研修	アンケートによる 満足度調査	90.0%	100%
	性的少数者を支 援する	41	性的少数者支援 のための交流会 等の開催	市民 協働課	交流会の開催	開催回数	6回	6回 開催日 5/20・7/15・9/16・11/18・1/20・3/16 ※すべて土曜日開催

【☆男女共同参画に配慮した項目☆】

- 1 男女の個人としての尊厳を重んじ、男女の差別を無くすことに配慮した
- 2 固定的性別役割分担意識や性による無意識の思い込みが男女の社会参加に影響しないよう配慮した
- 3 男女が政策、方針又は事業の企画立案及び決定に共同して参画する機会に配慮した
- 4 家族を構成する男女が家庭生活との両立ができるように配慮した

【○方策の観点からの自己評価○】

- A 効果があった
- B+ ほぼ効果があった
- B ある程度効果があった
- C あまり効果がなかった

資料5

☆項目	○自己 評価	評価した理由	今後の課題・予定	今後の進 め方	令和4年度実績〔前年度〕
4	A	令和5年度に国による名称変更に伴い、事業名を「面会交流」から「親子交流」に変更した。親子交流の実施に係る費用を補助することで、親子交流の推進に十分効果があったと考えている。	令和5年度に実施した「船橋市子ども・子育て支援に関するアンケート調査」の結果によると、養育費や親子交流の取り決めを行っている世帯は約半数であり、養育費の受給状況や親子交流の実施状況も十分に進んでいないことが課題である。	継続	4件
1,2,3 ,4	B+	目標に近い参加があり、参加者の満足度も概ね高かったため。	次年度以降も引き続きセミナーを開催していく。	継続	「ふなばし起業スクールオープンセミナー」参加者:1回平均21人 【内訳】 第1回 30人参加(7/16実施 定員50人) 第2回 12人参加(10/2実施 定員50人)
1,2,3 ,4	A	目標人数を上回ったため。	次年度以降も引き続きセミナーを開始していく。	継続	再就職支援セミナー参加者 29人
1,2	B+	新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、住居確保給付金の申請は減少傾向にあるが、住まいに課題がある生活困窮者に、給付金を支給し、就労支援を行うことで自立に導くことができた。	令和7年度に法改正により転居費も支給対象となることから、国通知等を注視し、適切に支援を行っていけるようにする。	継続	315月
1,2	A	中学生の参加者は全11会場で300人を超えており、参加児童・保護者の満足度は高く(令和5年度保護者満足度(※)79%、生徒満足度が89%)、高校進学率も100%を維持しており、生活困窮家庭に対する支援として十分効果があったと考えている。 ※設問「学習支援に参加して満足している」で「とてもそう思う」「すこしそう思う」と答えた割合	学習面や発達等で特に配慮が必要な生徒が多くいるが、委託上、専門スタッフを配置しておらず、当該生徒に対応する講師の負担が大きくなっていることが課題。	継続	326人 100%
1,2	B+	令和5年度から就労準備支援事業を活用した参加支援事業を開始したことにより、生活困窮状態にはないものの、ひきこもり等で社会参加に不安を抱える者への支援も行えた。	ボランティア活動の受け入れ先企業・団体の開拓が課題となっているため、地域で生活困窮者への支援活動を行う団体や民生委員等へ事業の周知を行い、ボランティア活動の受け入れ先企業・団体の情報収集に努めながら、引き続き事業を行う。	継続	利用件数 11件 就労者数 3人
4	B+	就労支援事業に参加し、就労に繋がれた者が一定数いた。	今後も対象者が抱える課題に応じた支援方法により、履歴書・職務経歴書の作成、面接の受け方指導、ハローワークへの同行等、求職活動支援を行う。	継続	44人
2	A	目標に達したことや性的少数者への理解の促進を図ることができたため。	今後も性的少数者当事者や活動支援者への理解が深まるように、啓発物の内容を工夫して、性的少数者への理解の促進に努める。	継続	4回 ・市民向け周知:人権ポケットブック「セクシュアル・マイノリティと人権」の配布 7,200部(市内中学生1学年等) ・企業向け周知:パートナーシップ宣誓制度チラシ配布 2,400部 ・市職員向け周知:令和4年度新規採用職員および会計年度任用職員向けにeラーニング実施でテキストとして周知 ・イオンモール船橋にてLGBT啓発に関するポスターを展示(10月3日～10月14日)
1,2	A	受講者11人中全員が「満足した」と受講後アンケートで回答したため。	令和6年度も引き続き、新任教頭研修にて、性的少数者の理解と学校としての対応について研修を実施する。	継続	100% 13人中全員が、大変満足したと回答した。
2	A	目標に達したうえ、6回すべて参加した方もおり、居場所づくりとしての機能が十分果たせたため。	交流会を開催することによって、性自認や性的指向等に悩む若者の一助となるように、今後も事業を継続していく。	継続	6回 開催日 5/14・7/9・9/10・11/12・1/14・3/4 ※すべての回土曜日開催

概要版選定用 A/B+抜粋版

方 策	方策の方向性	事業 番号	事業	担当課	具体的な事業	指標名	目標年度 (令和7年度)	令和5年度実績
高齢者、 障害者、 外国人が 安心して 暮らせる 環境整備	地域で暮らす高 齢者が安心して 生活できるよう 支援を行う	43	高齢者虐待防止 のための取組	地域包括 ケア推進課	船橋市高齢者虐待 防止等ネットワー ク運営委員会	運営委員会開催 回数	1回	会議開催回数：1回
		43	高齢者虐待防止 のための取組	地域包括 ケア推進課	船橋市高齢者虐待 防止等ネットワー ク担当者会議	担当者会議開催 回数	6回	会議開催回数：6回
		44	船橋市社会福 祉協議会が実施 する「高齢者等 の生きがいつく りや交流事業」 に対する支援	地域 福祉課	ミニデイサービス 事業	実施回数	650回	実施回数 577回 ※集まっでの開催 548回 郵送による実施 29回
		45	公民館での講座 の開催(高齢者 対象事業)	公民館	公民館での講座の 開催 (高齢者対象事業)	事業数 延参加者数	130事業 延40,000人	全館で開催している高齢者学級のほか、シルバーリハビリ体操や 介護・認知症予防等の健康維持の講座、スマートフォンの使い方 の講座等を開催した。 73事業開催、延10,494人参加。
		46	高齢者の消費者 被害防止のため の相談や学習の 機会の提供	消費生活 センター	老人福祉センター 定期出張相談	実施回数	56回	52回
		46	高齢者の消費者 被害防止のため の相談や学習の 機会の提供	消費生活 センター	まちづくり出前講 座	実施回数	24回	13回
		47	高齢者の消費者 被害防止のため の研修	消費生活 センター	民生児童委員等消 費生活研修会	実施回数	5会場＋動画配信	3会場＋動画配信
		48	消費者安全確保 地域協議会の開 催	消費生活 センター	消費者安全確保地 域協議会	実施回数	2回	1回
	障害を理由とす る差別を解消す るための啓発を 行う	50	障害者差別解消 のための啓発	障害 福祉課	市職員への周知・ 啓発	-	-	・全職員対象のeラーニング研修 ・新規採用職員研修 ・障害者差別解消法庁内連絡会
		50	障害者差別解消 のための啓発	障害 福祉課	市民への周知・啓 発	障害者週間記念 事業の来場者(船 橋市民)の理解促 進度	100%	第29回障害者週間記念事業 2,575人 来場者(船橋市民)の理解促進度 94.9%
	障害者の就労を 支援する	51	就労支援事業	障害 福祉課	就労支援事業	就職件数	32件	障害者就業・生活支援センター 登録者数 1,201人 障害者就業・生活支援センター 就職件数(延べ数) 31件
		52	障害者就労支援 事業	商工 振興課	障害者就労支援事 業	イベント開催回数	1回	令和5年度 「障害者雇用推進・啓発イベント『はたらく』というこ と」 【内訳】 会場 66人参加、オンライン83人参加(1/17実施 定員150人)
	外国人を対象と した相談や学習 機会を提供する	54	多言語での情報 提供や相談体制 の充実	国際 交流課	外国人住民向け多 言語生活情報紙 「ようこそ・ふなば し」の発行	発行部数	4,800部	100% 4,800部発行(年4回／各1,200部)
		54	多言語での情報 提供や相談体制 の充実	国際 交流課	外国人総合相談窓 口	相談件数	2,600件	112% 相談件数：2,924件
		55	日本語教室の開 催	国際 交流課	日本語教室の開催	受講者数	300人	114% 342人
男女共同 参画の視 点に立っ た防災体 制の確立	災害時に男女共 同参画の視点に 立った避難所運 営等ができるよ う、平常時からの 取組を行う	58	男女共同参画の 視点からの災害 時に効果的な取 組事例の共有	市民 協働課	男女共同参画の視 点からの災害時に 効果的な取組み を市民に周知	回数	1回	1回 ホームページにて「災害対応力を強化する女性の視点について」 を掲載
		59	男女共同参画の 視点に立った防 災講座の開催	市民 協働課	講座等の開催	定員に対する参 加人数の割合	90.0%	73.3% 親子de防災シールラリー 定員15組 参加11組
	防災の現場にお ける女性の参画 拡大	60	消防団への女性 の積極的な入団 の促進	消防局 警防課	消防団への女性の 積極的な入団を促 進	女性消防団員の 入団促進	2人	令和5年度入団者4人 女性消防団員24人(令和6年3月31日時点) うち、現場活動に従事する者3人(令和6年3月31日時点)

【☆男女共同参画に配慮した項目☆】				【○方策の観点からの自己評価○】	
1 男女の個人としての尊厳を重んじ、男女の差別を無くすことに配慮した 2 固定的性別役割分担意識や性による無意識の思い込みが男女の社会参加に影響しないよう配慮した 3 男女が政策、方針又は事業の企画立案及び決定に共同して参画する機会の確保に配慮した 4 家族を構成する男女が家庭生活との両立ができるように配慮した				A 効果があった B+ ほぼ効果があった B ある程度効果があった C あまり効果がなかった	
☆項目	○自己評価	評価した理由	今後の課題・予定	今後の進め方	令和4年度実績[前年度]
1	A	高齢者虐待を扱う委員会であり、虐待事例の中でDV被害等がある事例もあり、その事例に対し医師などから構成される委員と対応について報告を行った。	引き続き、会議の中で高齢者虐待について委員と対応を検討していき、男女が性別による差別的取り扱いを受けないように配慮していく。	継続	会議開催回数：1回
1	A	高齢者虐待を扱う会議であり、虐待事例の中でDV被害等がある事例もあり、その事例に対し医師などから構成される委員と対応について検討を行った。	引き続き、会議の中で高齢者虐待について委員と対応を検討していき、男女が性別による差別的取り扱いを受けないように配慮していく。	継続	会議開催回数：5回 新型コロナウイルス感染症の影響により標記担当者会議は年5回実施した。
1,2	B+	新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、通常開催と郵送での実施を併用して行った。郵送では、脳トレや塗り絵、ワークキット等を送付し、孤立しないよう努めた。	令和6年度については、感染対策を講じた上で、通常開催での実施を予定している。	継続	実施回数 412回 ※集まったの開催 283回 郵送による実施 129回
1,2,4	A	高齢者の健康維持や生きがいづくり、仲間づくりの場の提供のほか、デジタルデバйд解消に向けたスマートフォンの講座を実施する等、有意義な講座が開催できた。	引き続き講座の充実を図り、高齢者にとって日々の生きがいにつながる講座を実施していきたい。	継続	全館で開催している高齢者学級のほか、シルバーリハビリ体操や介護・認知症予防等の健康維持の講座、スマートフォンの使い方の講座等を開催した。 130事業開催、延21,644人参加。
1	A	定期的に地域の高齢者が集まる施設を訪問し、啓発活動を行うことが出来た。	継続して対応していく。	継続	54回
1	A	消費生活に関する情報提供を行うことが出来た。	継続して対応していく。	継続	12回
1	A	地域の高齢者をつながりの深い方々へ対して、消費者被害に関する知識の提供を行うことが出来た。	継続して対応していく。	継続	会場実施5回及び動画配信
1	A	行政と地域の様々な団体との連携を強化することが出来た。	継続して対応していく。	継続	1回
1	A	市職員向けの研修を実施し、障害と障害者について考える機会を設けることで、市職員の障害と障害者に対する理解を促進した。	引き続き、庁内への障害者差別解消法のさらなる周知・啓発に取り組んでいく。	継続	・全職員対象のeラーニング研修 ・新規採用職員研修 ・障害者差別解消法庁内連絡会
1	A	市民向けのイベントを実施し、市民の障害に対する理解を促進した。	市民への障害者差別解消のための啓発を促進する。	継続	第28回障害者週間記念事業 2,616人 来場者(船橋市民)の理解促進度 89.6%
1,2,3,	A	障害者就業・生活支援センターの認知度を向上し、登録者数を増やすことで、就職及び職場定着を支援し、経済的自立を図った。	引き続き、障害者就業・生活支援センターの就職件数を増やすための取組を行っていく。	継続	障害者就業・生活支援センター 登録者数 1,102人 障害者就業・生活支援センター 就職件数(延べ数) 27件
1,2,3,4	B+	目標に到達しているため。	次年度も引き続きイベントを開催する。	継続	令和4年度「障害者雇用推進・啓発イベント『はたらく』ということ」 【内訳】 会場32人参加、オンライン18人参加(1/18実施定員30人)
1,2	A	事業を実施することにより、外国人住民が日本社会に溶け込み生活できるようになる支援ができたので、一定の効果があったと評価した。	引き続き外国人住民への情報提供を行うことで、外国人住民の不安を解消し、日本人外国人がともに良き隣人として共生できる環境作りを図っていくことが求められる。	継続	100% 4,800部発行(年4回／各1,200部)
1,2	A	事業を実施することにより、外国人住民が日本社会に溶け込み生活できるようになる支援ができたので、一定の効果があったと評価した。	引き続き外国人住民への相談事業を行うことで、外国人住民の不安を解消し、日本人外国人がともに良き隣人として共生できる環境作りを図っていくことが求められる。	継続	113% 相談件数：2,948件
1,2,4	A	事業を実施することにより、外国人住民が日本社会に溶け込み生活できるようになる支援ができたので、一定の効果があったと評価した。	今後も市内外を問わず外国人住民の増加が予想される中、継続的に日本語学習支援を行うことで、新しく船橋市に来る外国人住民が日本社会に溶け込み生活できるような体制を維持する必要がある。	継続	94% 283人
1,2,3	A	目標を達成することができ、一定の周知ができたと考えるため。	今後も、男女共同参画の視点から災害時に効果的な取組事例の共有ができるように周知活動を継続する。	継続	1回 市民協働課ホームページにて「女性が力を発揮するこれからの地域防災～ノウハウ・活動事例集～」を掲載
1,2,4	B+	目標を達成することはできなかったが、アンケートに回答した参加者のほとんどが「非常に良かった」「良かった」と回答したため。	現行の親子防災講座は継続していく。また、男女共同参画の視点に立った防災について、市民の学習機会の提供を促進するため、R6年度は危機管理課と連携し防災講座を開催する。	拡大	80.0% 夏休み♪親子de防災シールラリー講座 定員15組 参加者12組
1,2,4	A	女性消防団員の現場活動への参入が進み、活躍の機会が増えた。	女性の消防団入団に向けた取り組みを継続して行っていく。	継続	令和4年度入団者5人 女性消防団員23人(令和5年3月31日時点)

概要版選定用 A/B+抜粋版

課題Ⅲ

配偶者等からの暴力の根絶

方針4

女性に対する暴力の予防と根絶のための基盤づくり

方 策	方策の方向性	事業 番号	事業	担当課	具体的な事業	指標名	目標年度 (令和7年度)	令和5年度実績
暴力根絶 のための 予防啓 発・教育	暴力の加害者にも被害者にもならないよう、啓発活動を行うとともに、学習機会を提供する	61	ホームページ・情報誌・広報誌等による周知	市民協働課	ホームページ・情報誌・広報誌等による周知	掲載回数	10回	計12回 ・情報誌「fえふ」にて「これってあたり前？ 無意識に我慢していませんか SNSにもトレンド入りした「デートDV」のお話」の記事を掲載 ・「女性に対する暴力をなくす運動」期間を広報誌にて周知 ・「女性に対する暴力をなくす運動」期間中に男女共同参画センターにて啓発 ・県作成DV防止啓発チラシを町会・自治会掲示板に掲示 ・講座「デートDVを知る～わたし・あなた・あのこは大丈夫？～」の資料を公開 ・ホームページにて「性犯罪被害者相談のご案内」を掲載 ・男女共同参画センターでパープルライトアップを実施 ・イオンモール船橋にてDV防止啓発ポスターを展示（11月1日～11月9日） ・市役所にてパネル展示を実施(11月20日～11月24日) ・「若年層の性暴力被害予防月間」期間中に男女共同参画センターにて啓発 ・ハンドブック「DVのない社会を目指して」 1,300部 ・デートDV防止啓発チラシ 6,000部(市内中学3年生等に配布)
		64	地域の自主防犯活動等の防犯対策の推進	市民安全推進課	防犯パトロール隊支援物資の支給	自主防犯パトロール隊の結成率	56.3%	・自主防犯パトロール隊への支援物資支給事業申請団体数238(うち、新規団体数2) ・累計団体数491 ・結成率55.3% ※町会・自治会数888
	暴力がないまちづくりを進める	65	市内巡回による犯罪の抑止	市民安全推進課	市民安全パトロール	-	-	月～土曜に1～3台の市民安全パトロールカーで市内全域を巡回した。小学生の下校時間には、校門付近で駐留警戒や啓発放送を流し、子どもたちに注意を呼びかけた。
相談・支援体制の 充実	相談業務の充実を図る	66	犯罪被害者支援のため知識・技能を向上させることを目的とした研修への職員参加	市民安全推進課	県主催等の犯罪被害者支援のための研修への職員参加	研修参加人数	4人	千葉県が主催する「犯罪被害者等支援のための県・市町村相談関係機関職員研修」に1人の職員が参加した。
		67	性犯罪や性暴力被害者のための相談・支援情報を周知	市民協働課	ホームページ・情報誌等による周知	掲載回数	2回	3回 ・「若年層の性暴力被害予防月間」期間中に男女共同参画センターにて啓発 ・情報誌「fえふ」にて「これってあたり前？ 無意識に我慢していませんか SNSにもトレンド入りした「デートDV」のお話」の記事を掲載 ・ホームページにて「性犯罪被害者相談のご案内」を掲載
		68	市民法律相談・生活相談	市民の声を聞く課	市民法律・生活相談	土曜日における法律相談及び生活相談の実施	法律相談月2回、生活相談月1回	法律一月2回(第2・4土曜日)、生活一月1回(第2土曜日) 相談総数 2,672件(うちDV相談7件) 市民法律相談 相談員9人(予約制・面談) ①月～金曜日 相談件数 1,136件 ②毎月第2・4土曜日 相談件数 112件 市民生活相談 相談員4人 ①月～金曜日(先着順・面談) 相談件数 1,368件 ②毎月第2土曜日(予約制・面談) 相談件数 56件
		69	生き方相談・女性のための法律相談	市民協働課	女性の生き方相談	相談件数	384件	毎週金曜日、水曜日 相談件数 311件 (予約制、面接または電話)
		69	生き方相談・女性のための法律相談	市民協働課	男性の生き方相談	相談件数	163件	毎週月曜日 相談件数 173件 (電話)
		70	相談カードの配布等による相談窓口の周知	市民協働課	相談カードの配布	配布枚数	6,600枚	公共施設・ショッピングモール・スーパーマーケット ①配布箇所数 89ヶ所 ②配布枚数 8,190枚
		70	相談カードの配布等による相談窓口の周知	市民協働課	広報による周知	掲載回数	12回	掲載回数12回(年) 毎月1回 広報により周知 生き方相談(男性・女性) 女性のための法律相談
		71	女性相談	こども家庭支援課	女性相談	-	-	相談員8人 相談件数 2,594件 (面接 511件、電話 2,083件) その内新規 668件
		72	相談員の研修への派遣	こども家庭支援課	相談員の研修への派遣	派遣回数	20回	相談員の派遣研修 16回 独立行政法人国立女性教育会館の宿泊研修に出席1回 千葉県主催のDV等研修会へのオンライン参加 8回
		73	家庭児童相談	児童相談所開設準備課	家庭児童相談及び児童虐待相談	-	-	相談員が、様々な相談に的確に応じられるよう各種研修会に参加し、スキルアップを図った。また、児童相談所経験者を、引き続きスーパーバイザーとして任用し、ケースワーク上のアドバイス等を受けることにより、相談支援の向上に努めた。

【☆男女共同参画に配慮した項目☆】

- 1 男女の個人としての尊厳を重んじ、男女の差別を無くすことに配慮した
- 2 固定的性別役割分担意識や性による無意識の思い込みが男女の社会参加に影響しないよう配慮した
- 3 男女が政策、方針又は事業の企画立案及び決定に共同して参画する機会の確保に配慮した
- 4 家族を構成する男女が家庭生活との両立ができるように配慮した

【○方策の観点からの自己評価○】

- A 効果があった
- B+ ほぼ効果があった
- B ある程度効果があった
- C あまり効果がなかった

資料5

☆項目	○自己評価	評価した理由	今後の課題・予定	今後の進め方	令和4年度実績[前年度]
1	A	目標に達したうえに暴力根絶に向けて様々な方面からアプローチすることができたため。	今後も暴力根絶に向けて、啓発活動を行うとともに、学習機会を提供する。	継続	計10回 ・情報誌「fえふ」にて「女性に対する暴力の根絶を目指して」の記事を掲載 ・「女性に対する暴力をなくす運動」期間を広報誌にて周知 ・「女性に対する暴力をなくす運動」期間中に船橋市男女共同参画センターにて啓発 ・県作成DV防止啓発チラシを自治会掲示板に掲示 ・防犯講座 女子のための防犯知識～私はホントに大丈夫？～ ・9月17日(土)開催の男女共同参画フェスティバルにてパネル展示 ・イオンモール船橋にてDV防止啓発ポスターを展示(11月28日～12月12日) ・「若年層の性暴力被害予防月間」期間中に男女共同参画センターにて啓発 ・ハンドブック「DVのない社会を目指して」 1,100部 ・デートDV防止啓発チラシ 2,400部
1	B+	自主防犯パトロール隊を新たに結成した団体が6団体あったため、一定の効果があつたと評価した。	今後も防犯パトロール隊の結成の一助となるよう物資の支給を行っていきたい。	継続	・自主防犯パトロール隊への支援物資支給事業申請団体数231(うち、新規団体数6) ・累計団体数489 ・結成率55.2% ※町会・自治会数886
1	B+	市内全域のATMや学校などを巡回し警戒できたため、一定の効果があつたと評価した。	今後も犯罪発生抑止に繋げるべく市内の巡回を継続したい。	継続	月～土曜に1～3台の市民安全パトロールカーで市内全域を巡回
1	B+	今年度も千葉県主催の研修会に参加することができたため、一定の効果があつたと評価した。	未受講の職員や異動者が、研修会等に積極的に参加し、犯罪被害者支援への理解を深めていく。	継続	千葉県が主催する「犯罪被害者等支援のための県・市町村相談関係機関職員研修」に1人の職員が参加した。
1	A	目標を達成することができ、一定の周知ができたと考えるため。	今後も性犯罪や性暴力に悩む人の一助となるよう、周知活動を継続する。	継続	3回 ・「若年層の性暴力被害予防月間」期間中に男女共同参画センターにて啓発 ・情報誌「fえふ」にて「女性に対する暴力の根絶を目指して」の記事を掲載 ・市民協働課ホームページにて「性的犯罪者相談のご案内」を掲載
1	A	目標が達成できた。	今後も日常生活において様々な問題に悩んでいる多くの市民に相談の機会を提供していきたい。	継続	法律一月2回(第2・4土曜日)、生活一月1回(第2土曜日) 相談総数 2,804件(うちDV相談2件) 市民法律相談 相談員9人(予約制・面談) ①月～金曜日 相談件数 1,147件 ②毎月第2・4土曜日 相談件数 110件 市民生活相談 相談員4人 ①月～金曜日(先着順・面談) 相談件数 1,498件 ②毎月第2土曜日(予約制・面談) 相談件数 49件
1	B+	相談件数も増加傾向にあり、多くの相談者の一助となったと考えるため。	令和5年度からは、第3水曜日から毎週水曜日に増枠して対応したため相談件数の増加につながった。今後も事業を継続していく。	継続	毎週金曜日、第3水曜日 相談件数 243件 カウンセラー 2人(予約制、面接または電話)
1	A	相談件数も増加傾向にあり、多くの相談者の一助となったと考えるため。	今後も相談者に寄り添った相談事業を継続する。また、一人でも多くの相談者に周知できるよう、今後も継続して周知活動を行っていく。	継続	毎週月曜日 相談件数 143件 カウンセラー 3人(電話)
1	A	目標に達したことや、民間のショッピングモールやスーパーマーケットに配置依頼を行い、多くの方が手に取るよう配布することができたため。	今後も配布箇所や配布枚数の検討を重ねて、多くの市民に事業の周知ができるように努める。	継続	公共施設・ショッピングモール・スーパーマーケット ①配布箇所数 74ヶ所 ②配布枚数 7,680枚
1	A	目標を達成することができ、漏れなく周知活動ができたため。	今後も広報に掲載することによって、相談者への周知活動を継続していく。	継続	掲載回数12回(年) 毎月1回、広報により周知 生き方相談(男性・女性) 女性のための法律相談
1	A	DVをはじめ、あらゆる問題を抱えた女性の相談に対応するため、研修の参加や他機関との会議開催等を行い、相談者の意思を尊重した支援とは何かについて考え、相談者の意思を尊重した支援を実施することができたことから、十分効果があつたと考えている。	困難な問題を抱える女性への支援に関する法律によって、他機関からの情報提供や相談が増えると予想されるため、支援をたらい回しにせず、他機関と協働しながら相談者の意思を尊重した支援を継続していく。	継続	相談員8人 相談件数 2,374件 (面接 443件、電話 1,931件) その内新規 622件
1	A	配偶者の暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律の改正等や困難な問題を抱える女性への支援に関する法律の施行など、法律の改正や新法施行の動きがある中で相談員の資質向上を図り、実際の支援に生かすことができたことから、十分効果があつたと考えている。	DVや虐待など複合的な要因を抱えている女性も多く、支援にあたっては幅広い知識と相談スキルが必要となることから、相談員が様々な研修に参加できるよう、調整を図っていく。	継続	千葉県主催のDV等研修会へ相談員を派遣 22回 オンラインによるDV等研修会への参加10回
1,2	A	県や児童福祉に関係のある機関が主催する研修会に積極的に参加し、知見を深めることができた。また、スーパーバイザーによる日々のケースワーク上のアドバイスを受けることにより、相談業務のスキルアップ向上に繋がった。	市児童相談所、こども家庭センターの設置を見据え、多様化する相談に対応することが出来るよう、引き続き多くの研修に参加する機会を設けていきたい。	継続	相談員が、様々な相談に的確に応じられるよう各種研修会に参加し、スキルアップを図った。また、児童相談所経験者を、引き続きスーパーバイザーとして任用し、ケースワーク上のアドバイス等を受けることにより、相談支援の向上に努めた。

概要版選定用 A/B+抜粋版

方 策	方策の方向性	事業 番号	事業	担当課	具体的な事業	指標名	目標年度 (令和7年度)	令和5年度実績
相談・支 援体制の 充実	相談業務の充実 を図る	74	児童虐待防止に係る啓発	児童相談所開設準備課	児童相談啓発	配布枚数 掲示枚数	児童相談啓発カード 35,500枚配布 児童相談啓発ポスター700枚掲示	児童啓発カード配布 35,500枚 児童相談啓発ポスター掲示 200枚
		74	児童虐待防止に係る啓発	児童相談所開設準備課	児童虐待防止啓発	掲示枚数	児童虐待防止啓発 ポスター3,500枚 掲示	児童虐待防止ポスター掲示 3,500枚
		74	児童虐待防止に係る啓発	児童相談所開設準備課	家庭児童相談室の 周知	配布枚数	家庭児童相談室 リーフレット1,000 枚配布	オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン(11月)に、保健福祉センター1階ロビーにて、家庭児童相談室が行っている事業のポスター掲示やチラシ、パンフレット、リーフレット、ポケットティッシュ、ステッカーを配架した。
		75	様々な悩みに対応する相談窓口の周知	健康 政策課	「ひとりで悩まず相談を…」無料相談窓口の周知	-	-	ホームページに掲載、市内各所にて配布し周知を実施。 市民便利帳には積極的に掲載。その他の市の情報冊子などで照会があった場合も極力掲載。(ホームページにリンクを飛ばせるQRコードを掲載)
		76	SNS相談事業	地域 保健課	SNS相談@船橋	-	-	延相談成立者数 1,827件

方針5

配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護等の推進

方 策	方策の方向性	事業 番号	事業	担当課	具体的な事業	指標名	目標年度 (令和7年度)	令和5年度実績
被害者の安全確保 と自立支援	被害者の安全確保を図る	77	被害者の一時保護	こども家庭支援課	被害者の一時保護	-	-	千葉県の一時保護所への入所 3件 民間シェルターへの入所 1件
		77	被害者の一時保護	こども家庭支援課	緊急一時支援	-	-	緊急一時支援の実施 2件
		78	情報管理の徹底	こども家庭支援課	個人情報の保護及び情報セキュリティの研修実施	開催回数	2回	個人情報の取り扱いについて内部研修を実施 2回
		78	情報管理の徹底	こども家庭支援課	情報管理の徹底	開催回数	1回	個人情報の取り扱いについて内部研修を実施 5回
		78	情報管理の徹底	こども家庭支援課	住民基本台帳の閲覧等の制限	-	-	住民基本台帳事務における支援措置申出書発行 78件
	被害者の自立支援と関係機関との連携を行う	79	自立支援のための情報収集と情報提供	こども家庭支援課	自立支援のための情報収集と情報提供	-	-	相談者が適切な支援を受けられるよう、庁内関係各課に適宜問い合わせを行い、必要時相談者の同行支援を行った。また、相談者の状況把握及び支援の役割分担を確認するため、関係各所へ積極的に声をかけ、会議の開催等を行った。
		80	DVIに関する職員研修会の開催	こども家庭支援課	DVIに関する職員研修会の開催	開催回数	1回	11月:令和5年度DV被害者支援に関する職員研修会を対面で開催した。
		81	民間支援団体との連携についての研究	こども家庭支援課	民間支援団体との連携についての研究	-	-	民間シェルター等の支援を行っている団体について、ケース対応やさーくる、他機関主催の勉強会等で情報を収集することができた。
		82	「船橋市要保護児童及びDV対策地域協議会」における連携	児童相談所開設準備課	「船橋市要保護児童及びDV対策地域協議会」における連携	-	-	代表者会議:実務者会議が円滑に運営されるための環境整備を行うため会議開催 年1回 実務者会議:要保護児童及びDVに関する情報交換、実務者把握並び支援を行っている事例の総合的把握を行うために会議開催 年12回 個別支援会議:個別の要保護児童等及びDV被害者に対する具体的な支援内容等を検討するため会議を開催:168回 居住実態不明児童等対応検討会議:居住実態不明児童等対応検討会議を開催して、情報共有、情報交換及び支援の進捗等の協議のため会議を開催 年1回

【☆男女共同参画に配慮した項目☆】

1 男女の個人としての尊厳を重んじ、男女の差別を無くすことに配慮した

2 固定的性別役割分担意識や性による無意識の思い込みが男女の社会参加に影響しないよう配慮した

3 男女が政策、方針又は事業の企画立案及び決定に共同して参画する機会に配慮した

4 家族を構成する男女が家庭生活との両立ができるように配慮した

【○方策の観点からの自己評価○】

A 効果があった

B+ ほぼ効果があった

B ある程度効果があった

C あまり効果がなかった

資料5

☆項目	○自己評価	評価した理由	今後の課題・予定	今後の進め方	令和4年度実績[前年度]
1,2	A	市内小・中学校へのカード配布は目標を達成した。関係機関へのポスター掲示は見直しを行い、より効果的な場所に配布することにより児童相談啓発を行うことができた。	今後も適宜見直しを行い、効果的な児童相談啓発を継続していく。	継続	児童相談啓発カード配布 35,500枚 児童相談啓発ポスター掲示 700枚
1,2	A	市内小・中学校をはじめとする関係機関及び自治会へのポスター掲示枚数は目標を達成し、児童虐待防止啓発や家庭児童相談室の周知活動を行うことができた。	今後も児童虐待防止啓発のために継続していく。	継続	児童虐待防止啓発ポスター掲示 3,500枚
1,2	A	多種多様な啓発物品を配架することにより、家庭児童相談室のコーナーに興味をもってもらう機会を作ることができ、可能な範囲での周知を図れたため。	今後もリーフレットに限らず、市民に興味関心を持ってもらえる企画・機会を作っていく。	継続	新型コロナウイルス感染拡大防止のためイベント形式が変更となり、イベントへの参加を見送ったため、リーフレット等の配布実績は無し。 児童虐待防止推進月間(11月)に、保健福祉センター1階ロビー及び本庁舎1階にて、家庭児童相談室が行っている事業のポスター掲示やリーフレット40部、ポケットティッシュ450部を配架した。
1	A	各相談窓口で、相談窓口案内に活用されている。	ホームページに掲載、市内各所にて配布し周知を実施。 市民便利帳には積極的に掲載。その他の市の情報冊子などで照会があった場合も極力掲載。(ホームページにリンクを飛ばせる二次元コードを掲載)	継続	ホームページに掲載、市内各所にて配布し周知を実施。
4	A	家庭問題に関する相談も受け付けているため。	引き続き実施していく。	継続	延相談成立者数 1,934件

☆項目	○自己評価	評価した理由	今後の課題・予定	今後の進め方	令和4年度実績[前年度]
1	A	一時保護によって、DV被害者の安全確保を図ることができたことから、十分効果があったと考えている。	複雑な問題を抱えた女性の相談が増えているため、ケースの状況を聞き取りながら、、相談者の意思を確認し、一時保護の可否について迅速に判断していく。	継続	千葉県の一時保護所への入所 4件 民間シェルターへの入所 1件
1	A	緊急一時避難をすることによって、DV被害者の安全確保を図ることができた。	複雑な問題を抱えた女性の相談が増えているため、ケースの状況を聞き取りながら、、相談者の意思を確認し、避難方法について適切に判断していく。	継続	緊急一時支援の実施 3件
1	A	個人情報の取扱いについての内部研修を実施し、情報の取扱いについて共有し、個人情報の保護を徹底することができたことから、十分効果があったと考えている。	相談には、重要性分類Ⅰに該当する個人情報を含むことから、個人情報保護の徹底について、繰り返し内部研修を実施し認識を共有していく。	継続	個人情報の取扱いについて内部研修を実施 2回
1	A	個人情報の取扱いについて、庁内関係機関向けの研修を実施し、個人情報の取扱いについて共有した。その結果、個人情報の保護を徹底することができたことから、十分効果があったと考えている。	職員研修やケース対応を通して、関係部署に情報の取り扱いや秘匿の重要性について、より強く、わかりやすく伝えていく。	継続	個人情報の取扱いについて内部研修を実施 1回
1	A	住民票基本台帳事務における支援措置申出書については、発行の要否を十分検討するとともに、発行する場合は紙で決裁を行うなど、庁内であっても関係部署以外に漏洩がないよう十分留意して取り扱った。	情報の取扱いを徹底し、引き続き情報漏洩がないよう厳重な管理をするとともに、担当課とも連携を図っていく。	継続	住民基本台帳事務における支援措置申出書発行 89件
1	A	相談者の自立に向け、家庭児童相談室や戸籍住民課などの関係機関と連携し対応することができたことから、十分効果があったと考えている。	複雑な問題を抱えた女性の相談が増えているため、ケースの状況を丁寧に聞き取り、適宜関係各課及び他機関と連携しながら相談者の自立に向けた支援を実施していく。	継続	相談者が適切な支援を受けられるよう、庁内関係各課に適宜問い合わせを行い、必要時相談者の同行支援を行った。また、庁内関係各課からの問い合わせに対しても、適宜相談先の案内や支援方法の検討を行った。
1	A	前年はオンラインでの実施だったため、対面研修は3年ぶりであり、関係機関の担当者との顔の見える状態で実施することができた。	研修参加者の意見を参考に、関係部署が求める内容を重点化し、より実際の支援に則した研修を実施していく。	継続	11月：家庭児童相談室と合同で「児童虐待未然防止等基本研修」を病院局所属の医療職等を除いた常勤職員(再任用短時間職員を含む)を対象に実施した。
1	A	令和5年度に実際の活用はなかったが、支援のニーズは多様化していることから、情報収集に努め、今後の支援に生かせるよう情報をまとめることができた。このため、一定の効果はあったと考えている。	複雑な問題を抱えた女性の相談が増えているため、相談者の状況や意思決定に合わせた支援を行えるよう、引き続き情報を収集していく。	継続	民間シェルターの利用や外国籍の相談者のケース支援を実施するなかで、民間支援団体における対象や支援内容について情報収集した。
1,2,3,4	A	要保護児童及びDV対策地域協議会の支援児童等の情報共有、支援の進捗状況の把握を行うことができた。また、児童相談所で関わる要保護児童等についても情報共有ができたので、効果があったと考える。	情報共有、支援方針の見直しや課題検討等の協議が充実するよう、資料の見直しや会議の在り方について検討していく必要がある。	継続	代表者会議：実務者会議が円滑に運営されるための環境整備を行うため会議開催 年1回 実務者会議：要保護児童及びDVに関する情報交換、実務者把握並び支援を行っている事例の総合的把握を行うために会議開催 年12回 個別支援会議：個別の要保護児童等及びDV被害者に対する具体的な支援内容等を検討するため会議を開催：145回 居住実態不明児童等対応検討会議：居住実態不明児童等対応検討会議を開催して、情報共有、情報交換及び支援の進捗等の協議のため会議を開催。 年2回

概要版選定用 A/B+抜粋版

課題Ⅳ

男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備

方針6

育児・介護の支援基盤の整備

方 策	方策の方向性	事業 番号	事業	担当課	具体的な事業	指標名	目標年度 (令和7年度)	令和5年度実績
育児支援 の充実	相談業務・情報提 供の充実を図る	83	スクールソーシャルワーカー配置事業	総合教育センター	スクールソーシャルワーカー配置事業	派遣申請数	200件	派遣申請件数251件 目標としていた200件を上回った。
		84	ふなばし健康ダイヤル24	健康政策課	ふなばし健康ダイヤル24	-	-	相談件数93,052件 (うち、乳児に関する相談4,288件、幼児に関する相談14,365件、小・中学生に関する相談10,255件／計28,908件)
		85	子育てに関する情報の発信	こども政策課	子育て情報誌「ふなばし子育てナビゲーション」の発行	アクセス件数	3,200件	3,881件
		86	子育てに関する情報の発信	地域子育て支援課	ふなっ子メールの配信	登録者数	17,000人	登録者数 19,127人
		86	家庭児童相談	児童相談所開設準備課	家庭児童相談及び児童虐待相談	-	-	相談員が、様々な相談に的確に応じられるよう各種研修会に参加し、スキルアップを図った。また、児童相談所経験者を、引き続きスーパーバイザーとして任用し、ケースワーク上のアドバイス等を受けることにより、相談支援の向上に努めた。
		87	子育て相談	地域子育て支援課	子育て支援コーディネーターの子育てに関する情報提供・相談業務	地域子育て支援課子育て支援コーディネーターの情報提供・相談件数	2,400件	2,257件
		87	子育て相談	地域子育て支援課	子育て支援センター・児童ホームの子育て相談業務	相談件数	18,000件	20,573件 (子育て支援センター・児童ホーム)
		88	子どもの発達に関する相談	療育支援課	子どもの発達に関する相談業務	相談件数	10,000件	月～金曜日 相談件数9,684件(来所相談4,896件、電話相談1,225件、施設出張相談482件、こぼの相談3,081件) 心理発達相談員 20人 言語聴覚士 11人 社会福祉士 1人
		89	市立全小学校・高等学校におけるスクールカウンセラーの配置	指導課	児童生徒へのカウンセリング	学校評価の保護者アンケートにおける教育相談体制の肯定的評価	80.0%	87.7% 市内小学校全校、高等学校にスクールカウンセラーを配置している。児童生徒・保護者・教員を対象に相談活動を行った。学校評価における教育相談体制の肯定的評価が80%以上の学校は、56校中47校だった。
		89	市立全小学校・高等学校におけるスクールカウンセラーの配置	指導課	保護者へのカウンセリング	学校評価の保護者アンケートにおける教育相談体制の肯定的評価	80.0%	87.7% 市内小学校全校、高等学校にスクールカウンセラーを配置している。児童生徒・保護者・教員を対象に相談活動を行った。学校評価における教育相談体制の肯定的評価が80%以上の学校は、56校中47校だった。(教育相談体制の充実に関する保護者向けアンケート等)

【☆男女共同参画に配慮した項目☆】

- 1 男女の個人としての尊厳を重んじ、男女の差別を無くすことに配慮した
- 2 固定的性別役割分担意識や性による無意識の思い込みが男女の社会参加に影響しないよう配慮した
- 3 男女が政策、方針又は事業の企画立案及び決定に共同して参画する機会に配慮した
- 4 家族を構成する男女が家庭生活との両立ができるように配慮した

【○方策の観点からの自己評価○】

- A 効果があった
- B+ ほぼ効果があった
- B ある程度効果があった
- C あまり効果がなかった

資料5

☆項目	○自己評価	評価した理由	今後の課題・予定	今後の進め方	令和4年度実績[前年度]
1,2	A	目標を達成したため。	今後も男女の個人としての尊厳を重んじ、男女の差別を無くすことに配慮しながら、また、固定的性別役割分担意識や性により無意識の思い込みが男女の社会参加に影響しないよう配慮しながら相談活動を進めていく。	継続	派遣申請件数140件 令和4年度目標としていた135件を上回った。
4	A	相談件数の合計が93,052件のうち乳児、幼児、小・中学生を対象とした相談件数が28,908件となっており、育児を行っている家族等への支援として効果があったものと評価した。	今後も子育て支援の相談業務の充実を図るために、転入者へのチラシ配布等を行い、周知を進めていく。	継続	相談件数72,876件 (うち、乳児に関する相談3,155件、幼児に関する相談12,634件、小・中学生に関する相談6,060件／計21,849件)
4	A	令和5年度版を発行し目標値以上のアクセス数があり、子育てに関する情報発信を適切に行うことができたため。	引き続き市民などへの効果的な配布、周知を行う。	継続	2,992件
4	A	登録者数が目標値に達したため。	登録者数拡大のため周知を図る。	継続	登録者数 16,585人
1,2	A	県や児童福祉に関係のある機関が主催する研修会に積極的に参加し、知見を深めることができた。また、スーパーバイザーによる日々のケースワーク上のアドバイスを受けることにより、相談業務のスキルアップ向上に繋がった。	市児童相談所、こども家庭センターの設置を見据え、多様化する相談に対応することが出来るよう、引き続き多くの研修に参加する機会を設けていきたい。	継続	相談員が、様々な相談に的確に応じられるよう各種研修会に参加し、スキルアップを図った。また、児童相談所経験者を、引き続きスーパーバイザーとして任用し、ケースワーク上のアドバイス等を受けることにより、相談支援の向上に努めた。
4	B+	令和5年度は地域子育て支援課コーディネーターの配置が1人だったため(基本2人)、目標値及び昨年度実績を下回っているが、目標値の9割を超える実績であるためB+とした。	令和6年度は地域子育て支援課コーディネーターの配置が2人となった。引き続き情報提供・相談業務の充実を図る。	継続	情報提供・相談件数 2,341件
4	A	目標値を上回る実績となったため。	様々な相談に対応できるよう研鑽に努めるほか、必要に応じて、適切な相談先と連携できるよう日々の情報収集も継続する。	継続	相談件数 19,773件 (子育て支援センター・児童ホーム)
3	A	年間を通して専門職が保護者に寄り添った相談や指導を実施したことにより、施設や就学先に繋げることができた。	より充実した相談体制の整備を進めるため、予約システムを導入し、利用者の利便性向上を図る。	継続	月～金曜日 相談件数9,973件(来所相談5,249件、電話相談1,290件、施設出張相談476件、ことばの相談2,958件) 心理発達相談員 19人 言語聴覚士 11人 社会福祉士 1人
1,2	A	目標を達成できたため。	引き続き、各小・高等学校での教育相談体制を整えていく。	継続	市内小学校全校、高等学校にスクールカウンセラーを配置している。児童生徒・保護者・教員を対象に相談活動を行った。学校評価における教育相談体制の肯定的評価が80%以上の学校は、56校中47校だった。
1,2	A	目標を達成できたため。	引き続き、各小・高等学校での教育相談体制を整えていく。	継続	市内小学校全校、高等学校にスクールカウンセラーを配置している。児童生徒・保護者・教員を対象に相談活動を行った。学校評価における教育相談体制の肯定的評価が80%以上の学校は、56校中47校だった。 課題として、令和5年度は事業に連動する指標となるように検討していく。(教育相談体制の充実に関する保護者むけアンケート等)

概要版選定用 A/B+抜粋版

方 策	方策の方向性	事業 番号	事業	担当課	具体的な事業	指標名	目標年度 (令和7年度)	令和5年度実績
育児支援 の充実	相談業務・情報提供の充実を図る	89	市立全小学校・高等学校におけるスクールカウンセラーの配置	指導課	教職員へのコンサルテーション	学校評価の保護者アンケートにおける教育相談体制の肯定的評価	80.0%	87.7% 市内小学校全校、高等学校にスクールカウンセラーを配置している。児童生徒・保護者・教員を対象に相談活動を行った。学校評価における教育相談体制の肯定的評価が80%以上の学校は、56校中47校だった。(教育相談体制の充実に関する保護者向けアンケート等)
		90	教育相談	総合教育センター	教育全般に関する相談事業	アンケートによる満足度調査	95.0%	男女の個人としての尊厳を重んじ、男女の差別を無くすことに配慮しながら相談を行っている。アンケートの結果、97.6%が良い評価であり、効果があったと言える。
	多様なニーズに対応した保育等サービスの充実を図る	94	待機児童の解消に向けた保育所等の整備	保育運営課	保育需要に応じた受け皿の確保	待機児童数	0人	待機児童数 24人(R6.4.1) 令和5年度中の新規整備施設数 2園
		95	放課後ルーム事業	地域子育て支援課	放課後ルーム事業	-	-	令和5年度は、64,750人が放課後ルームを利用し、就労する保護者の支援に努めた。
		98	家庭的保育への巡回	保育運営課	家庭的保育への巡回	-	-	家庭的保育者数 3人 巡回数 29回
		99	発達支援保育の実施	保育運営課	発達支援保育に関する相談	-	-	・発達全般(身体、言葉、行動等)に関すること ・他機関の紹介
		99	発達支援保育の実施	保育運営課	他機関と調整を図りながら育児支援	-	-	関係機関からの情報収集を行い、相談者の育児支援のための活用を図っている。
		100	一時預かり・休日保育事業	保育入園課	一時預かり事業(一般型)	延べ利用人数	18,260人	17,637人
		100	一時預かり・休日保育事業	保育入園課	一時預かり事業(幼稚園型Ⅰ)	延べ利用人数	142,179人	166,814人
		100	一時預かり・休日保育事業	保育入園課	休日保育事業	延べ利用人数	641人	489人
	多様なニーズに対応した保育等サービスの充実を図る	101	病児・病後児保育事業	保育入園課	病児保育事業	延べ利用人数	1,262人	1,968人
		102	認可外保育施設通園児補助金	保育入園課	認可外保育施設通園児補助金	-	-	延べ利用人数1,081人
		103	幼児教育・保育の無償化	学務課	施設等利用給付事業	-	-	給付人数 5,466人
		103	幼児教育・保育の無償化	学務課	実費徴収に係る補足給付事業	-	-	給付人数 459人
		103	幼児教育・保育の無償化	保育入園課	子育てのための施設等利用費の支給	-	-	延べ利用人数14,162人
	子育てに関する学習機会を提供する	104	保育所での講座や教室の開催	保育運営課	育児講座の開催	-	-	育児講座 各公立保育園において月1回程度
		105	公民館での講座の開催(就学時健診等における子育て学習)	公民館	公民館での講座の開催(就学時健診等における子育て学習)	満足度数	80.0%	小学校入学前の児童を持つ保護者を対象とした、就学時健診子育て学習の開催。 54事業、延4,828人参加。満足度は97%。
		106	公民館での講座の開催(家庭教育セミナー)	公民館	公民館での講座の開催(家庭教育セミナー)	家庭教育セミナー開設学級数	34学級	子どものしつけや成長発達への理解等を学習するための家庭教育セミナーの開催。 29学級、延4,780人参加。
		107	公民館での講座の開催(子育て支援事業)	公民館	公民館での講座の開催(子育て支援事業(子育てサロン))	事業数 延参加者数	70事業 延12,000人	未就学児の親子を対象にした子育てサロンや子育て支援事業を開催した。 36事業、延3,368人参加。

【☆男女共同参画に配慮した項目☆】

- 1 男女の個人としての尊厳を重んじ、男女の差別を無くすことに配慮した
- 2 固定的性別役割分担意識や性による無意識の思い込みが男女の社会参加に影響しないよう配慮した
- 3 男女が政策、方針又は事業の企画立案及び決定に共同して参画する機会の確保に配慮した
- 4 家族を構成する男女が家庭生活との両立ができるように配慮した

【○方策の観点からの自己評価○】

- A 効果があった
- B+ ほぼ効果があった
- B ある程度効果があった
- C あまり効果がなかった

資料5

☆項目	○自己評価	評価した理由	今後の課題・予定	今後の進め方	令和4年度実績〔前年度〕
1,2	A	目標を達成できたため。	引き続き、各小・高等学校での教育相談体制を整えていく。	継続	市内小学校全校、高等学校にスクールカウンセラーを配置している。児童生徒・保護者・教員を対象に相談活動を行った。学校評価における教育相談体制の肯定的評価が80%以上の学校は、56校中47校だった。課題として、令和5年度は事業に連動する指標となるように検討していく。（教育相談体制の充実に関する教職員むけアンケート等）
1	A	目標に達成したため。	今後も男女の個人としての尊厳を重んじ、男女の差別を無くすことに配慮しながら相談活動を進めていく。	継続	男女の個人としての尊厳を重んじ、男女の差別を無くすことに配慮しながら相談を行っている。アンケートの結果、94.1%が良い評価であり、効果があったと言える。
3	A	女性の参画可能性の向上に寄与している。	保育の需給バランスを考慮した施設整備により、保育の受け入れ数の整備を進めることで、待機児童対策を進める。	継続	待機児童数 9人(R5.4.1) 4年度中の新規整備施設数 4園
4	A	令和4年度の放課後ルーム利用者の63,452人より多く利用されているため。	放課後ルームの申請数が増加していることに伴い、待機児童数も増加しているため、令和5年度に放課後ルーム待機児童対策を策定し、待機児童減少に努める。	継続	コロナ禍において、感染防止対策を徹底しながら、放課後ルームを開所し、就労する保護者の支援に努めた。
1	A	男女双方に利用しやすい環境とすることに努めた。	家庭的保育支援者及び連携保育所による指導、研修など、家庭的保育者個々に合わせたサポートを通じて、保育の質の維持・向上を図る。	継続	家庭的保育者数 4人 巡回数 38回 新型コロナ感染予防と非常事態宣言、及び緊急事態宣言期間に伴う自粛により回数減少
1	A	男女双方に利用しやすい環境とすることに努めた。	今後も発達支援児の保育を実施する上で、必要な情報収集に努め、保育の質の維持・向上を図る。	継続	・発達全般(身体、言葉、行動等)に関すること ・他機関の紹介
1	A	男女双方に利用しやすい環境とすることに努めた。	今後も発達支援児の保育を実施する上で、必要な情報収集に努め、保育の質の維持・向上を図る。	継続	関係機関からの情報収集を行い、相談者の育児支援のための活用を図っている。
4	B+	就労等で自宅で保育のできない世帯に対し、預け先の選択肢のひとつとして事業を提供することにより、子育て世帯の一助となっているため。	今後も事業を継続していく。	継続	15,899人
4	B+	就労等で自宅で保育のできない世帯に対して預け先を提供する園に対し、補助を行うことにより、子育て世帯の一助となっているため。	今後も事業を継続していく。	継続	153,283人
4	B+	就労等で自宅で保育のできない世帯に対し、預け先の選択肢のひとつとして事業を提供することにより、子育て世帯の一助となっているため。	今後も事業を継続していく。	継続	555人
4	B+	児童の体調不良時等に就労等で自宅で保育のできない世帯に対し、預け先の選択肢のひとつとして事業を提供することにより、子育て世帯の一助となっているため。	今後も事業を継続していく。	継続	1,174人
4	B+	就労等で自宅で保育のできない世帯に対し、施設の利用料の補助を行うことにより、子育て世帯の一助となっているため。	今後も事業を継続していく。	継続	1,281人
4	B+	事業目的を達成できているため。	今後も事業を継続していく。	継続	給付人数 6,107人
4	B+	事業目的を達成できているため。	今後も事業を継続していく。	継続	給付人数 477人
4	B+	就労等で自宅で保育のできない世帯に対し、施設の利用料の補助を行うことにより、子育て世帯の一助となっているため。	今後も事業を継続していく。	継続	12,487人
1	A	男女双方に利用しやすい環境とすることに努めた。	今後も保育業務に支障のない範囲で、保育所を利用していない未就学児やその保護者に対し、保育所の知見や経験を活かし支援を行う。	継続	育児講座 0回 新型コロナ感染症拡大防止の観点から、地域交流事業をとりやめたため(中止)
1,2,4	A	ほぼ全ての館で実施することができ満足度も高かった。	子供の成長発達への理解や、生活習慣の大切さ等、より多くの親が家庭教育を見直すための学習機会として、引き続き関係団体にも協力を仰ぎながら講座を実施していきたい。	継続	小学校入学前の児童を持つ保護者を対象とした、就学時健診子育て学習の開催。 51事業、延4,766人参加。
1,2,4	A	学級数の目標には届かなかったものの、PTA等と協力して有意義な講座が開催できた。	今後も子育ての悩みや不安を少しでも解消できる居場所を提供できるよう、講座の検討を行っていきたい。	継続	子どものしつけや成長発達への理解等を学習するための家庭教育セミナーの開催。 35事業、延2,102人参加。
1,2,4	A	親子のコミュニケーションを深めることができる場、参加者同士の情報交換の場を提供することができた。	各地域の子育て世代の現状やニーズを汲み取り、安心して参加してもらえるような講座を今後も検討していきたい。	継続	未就学児の親子を対象にした子育てサロンや子育て支援事業を開催した。 45事業、延3,854人参加。

概要版選定用 A/B+抜粋版

方 策	方策の方向性	事業 番号	事業	担当課	具体的な事業	指標名	目標年度 (令和7年度)	令和5年度実績
育児支援 の充実	地域における子育て支援事業の充実を図る	109	子育て支援センター・児童ホーム事業	地域子育て支援課	子育て支援センター・児童ホーム事業	来館者数	490,000人	747,362人 (子育て支援センター・児童ホーム)
		111	船橋市社会福祉協議会が実施する「子育てする親が地域で交流する事業」に対する支援	地域福祉課	子育てサロン事業	実施回数	430回	実施回数 373回 ※集まっでの開催 371回 郵送による実施 2回
	子どもの安全な通学経路等を確保する	112	地域の自主防犯活動等の防犯対策の推進	市民安全推進課	防犯パトロール隊支援物資の支給	自主防犯パトロール隊の結成率	56.3%	・自主防犯パトロール隊への支援物資支給事業申請団体数238(うち、新規団体数2) ・累計団体数491 ・結成率55.3% ※町会・自治会数888
		113	市内巡回による犯罪の抑止	市民安全推進課	市民安全パトロール	-	-	月～土曜に1～3台の市民安全パトロールカーで市内全域を巡回した。小学生の下校時間には、校門付近で駐留警戒や啓発放送を流し、子どもたちに注意を呼びかけた。
		114	交通事故防止のための交通安全対策の推進	市民安全推進課	交通安全計画の推進	-	-	第11次船橋市交通安全計画における目標 ・交通事故死者数 年間 5 人以下 ・交通事故負傷者数 年間 1,300 人以下 令和5年中の実績 ・交通事故死者数 6人 ・交通事故負傷者数 1,151人
	介護サービスの充実を図ることで、介護者の負担を軽減する	115	介護保険制度の周知	介護保険課	介護保険制度の周知	ガイドブックの発行部数	35,000部	介護保険制度の理解を深め、介護保険サービスを適切に利用できるよう、ガイドブック「介護保険・高齢者福祉ガイド」の作成・配布を行った。 発行部数:35,000部
		118	一時介護料の助成	障害福祉課	心身障害者一時介護料の助成	-	-	助成件数:140件 助成金額:599,150円
		119	施設等への短期入所支援	障害福祉課	施設等への短期入所	実利用者数	176人／月	実支給日数:1044日／月 実利用者数:155人／月
		120	日中一時支援	障害福祉課	障害者等日中一時支援	実利用者数	872人	実利用者数:655人 延べ利用回数:57,704回
		121	障害者(児)総合相談支援事業	障害福祉課	障害者(児)総合相談支援事業	相談回数	34,250回	合計 対応人数 4,904人 相談回数 22,532回 ・ふらっと船橋 対応人数 2,753人 相談回数 14,633回 ・テレサ会 対応人数 1,739人 相談回数 6,509回 ・ヴェルフ藤原 対応人数 412人 相談回数 1,390回
		123	生活支援コーディネーターの配置	地域福祉課	生活支援コーディネーター配置事業	たすけあいの会団体数	66団体	50団体(令和6年3月31日時点)
介護支援 の充実	地域での支え合いにより、介護者の負担を軽減する	124	地域福祉支援員の配置	地域福祉課	地域福祉支援員配置事業	たすけあいの会団体数	66団体	50団体(令和6年3月31日時点)
		125	地域包括支援センターの機能強化	地域包括ケア推進課	地域包括支援センターの機能強化	地域包括支援センター設置数	14ヶ所	地域包括支援センター設置数 14か所
		125	地域包括支援センターの機能強化	地域包括ケア推進課	地域包括支援センター出張相談窓口	相談件数	60件	70件
		126	地域包括支援センターの周知	地域包括ケア推進課	地域包括支援センターの周知	-	-	健康づくり課が行う介護予防把握事業において、対象者に船橋市健康スクールの結果通知を送付する際、地域包括支援センターの一覧を同封する他、介護保険・高齢者福祉ガイド、船橋市ホームページ、地域包括支援センター周知用パンフレット等により、地域包括支援センターの役割や機能について周知を図った。

【☆男女共同参画に配慮した項目☆】

- 1 男女の個人としての尊厳を重んじ、男女の差別を無くすことに配慮した
- 2 固定的性別役割分担意識や性による無意識の思い込みが男女の社会参加に影響しないよう配慮した
- 3 男女が政策、方針又は事業の企画立案及び決定に共同して参画する機会の確保に配慮した
- 4 家族を構成する男女が家庭生活との両立ができるように配慮した

【○方策の観点からの自己評価○】

- A 効果があった
- B+ ほぼ効果があった
- B ある程度効果があった
- C あまり効果がなかった

資料5

☆項目	○自己評価	評価した理由	今後の課題・予定	今後の進め方	令和4年度実績[前年度]
4	A	目標値を上回る実績となったため。	引き続き子育て支援事業の充実を図る。	継続	来館者数 637,969人 (子育て支援センター・児童ホーム)
1,2	B+	令和5年度は新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、通常開催と郵送での実施を併用して行った。 郵送では、工作キットや育児に関する通信等を送付し、孤立しないよう努めた。	令和6年度については、感染対策を講じた上で、通常開催での実施を予定している。	継続	実施回数 310回 ※集まってる開催 283回 郵送による実施 27回
1	B+	自主防犯パトロール隊を新たに結成した団体が6団体あったため、一定の効果があつたと評価した。	今後も防犯パトロール隊の結成の一助となるよう物資の支給を行っていきたい。	継続	・自主防犯/パトロール隊への支援物資支給事業申請団体数231(うち、新規団体数6) ・累計団体数489 ・結成率55.2% ※町会・自治会数886
1	B+	市内全域のATMや学校などを巡回し警戒できたため、一定の効果があつたと評価した。	今後も犯罪発生抑止に繋げるべく市内の巡回を継続したい。	継続	月～土曜に1～3台の市民安全パトロールカーで市内全域を巡回
1	B+	交通事故負傷者数については、第11次交通安全計画の年間目標を達成することができたため、一定の効果があつたと評価した。	今後も関係機関・団体と連携しながら総合的に対策を進め、交通事故を減少させるように努める。	継続	第11次船橋市交通安全計画における目標 ・交通事故死者数 年間 5 人以下 ・交通事故負傷者数 年間 1,300 人以下 令和4年中の実績 ・交通事故死者数 5人 ・交通事故負傷者数 1,348人
2	A	冊子に挿入するイラストについて、固定的性別役割分担意識や性による無意識の思い込みが男女の社会参加に影響しないよう配慮した。	令和6年度においても引き続き35,000冊を作成予定。 同様の配慮を行う予定。	継続	介護保険制度の理解を深め、介護保険サービスを適切に利用できるよう、ガイドブック「介護保険・高齢者福祉ガイド」の作成・配布を行った。 発行部数:35,000部
4	A	介護者のレスパイトケア等を目的とした一時預かりの実績が一定数あったことで、介護者の負担軽減が出来たと判断した。	今後も継続して事業を進めていく。	継続	助成件数:97件 助成金額:470,950円
4	A	心身障害者を介護する家族が一時的に介護ができない場合に、障害者支援施設等に短期間入所してもらい、入浴等の必要な介護を行うことで、介護者の負担を軽減した。	今後も継続して事業を進めていく。	継続	実支給日数:934日／月 実利用者数:121人／月
4	A	障害児・者の日中活動の場の確保と介護する家族の就労支援や一時的な休息を目的とした見守り等の支援を行うことで、介護者の負担を軽減した。	今後も継続して事業を進めていく。	継続	実利用者数:615人 延べ利用回数:54,312回
4	A	障害者等からの相談に応じ、必要な情報の提供や助言を行うことで障害福祉サービスの利用支援に繋がり、介護者の負担を軽減した。	今後も継続して事業を進めていく。	継続	合計 対応人数 4,552人 相談回数 22,408回 ・ふらっと船橋 対応人数 2,757人 相談回数 15,062回 ・テレサ会 対応人数 1,510人 相談回数 6,549回 ・ヴェルフ藤原 対応人数 285人 相談回数 797回
4	B+	新型コロナウイルス感染症やボランティアの高齢化等の影響により、たすけあいの会は減少傾向にあるが、町会の有志の集まりに参加して、地域住民を対象としたたすけあい活動についての出前講座等を行い、積極的な啓発に努めた。	市内の24地区社会福祉協議会の中には、たすけあいの会のない地区もある。市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会等と連携しながら、地域のニーズの把握に努め、必要に応じてたすけあいの会の立ち上げを支援する。	継続	57団体(令和5年3月31日時点)
4	B+	地域包括ケアシステム推進本部生活支援部会において、住民主体の生活支援サービスの一類型である「サービスB」の実施を検討する作業部会を立ち上げ、既存のたすけあいの会を訪問しヒアリングを行った。	作業部会を継続し、住民主体の生活支援サービスのあり方を検討する。	継続	57団体(令和5年3月31日時点)
1	A	今後の高齢者人口の推計等を考慮し、地域包括支援センターの整備方針を検討していく。	今後の高齢者人口の推計等を考慮し、地域包括支援センターの整備方針を検討していく。	継続	地域包括支援センター設置数:14ヶ所
1	A	船橋駅前総合窓口センターを利用し、平日になかなか相談できない高齢者や家族向けに「地域包括支援センター出張相談窓口」を日曜の午前中に月2回開設した。	引き続き、同事業の周知を図り、相談しやすい体制の整備に努める。	継続	相談件数:53件
1	A	地域包括支援センターの役割や機能についての周知を図ることで、相談しやすい体制整備につながり、ひいては介護者の負担軽減につながったものと思われる。	引き続き、地域包括支援センターの周知を図り、相談しやすい体制の整備に努める。	継続	健康づくり課が行う介護予防把握事業において、対象者に船橋市健康スケールの結果通知を送付する際、地域包括支援センターの一覧を同封する他、介護保険・高齢者福祉ガイド、船橋市ホームページ、地域包括支援センター周知用パンフレット等により、地域包括支援センターの役割や機能について周知を図った。

概要版選定用 A/B+抜粋版

方 策	方策の方向性	事業 番号	事業	担当課	具体的な事業	指標名	目標年度 (令和7年度)	令和5年度実績
男女共同参画推進のための啓発・相談	男女共同参画の視点に立った相談業務の充実を図る	129	生き方相談・女性のための法律相談	市民協働課	女性の生き方相談	相談件数	384件	毎週金曜日、水曜日 相談件数 311件 (予約制、面接または電話)
		129	生き方相談・女性のための法律相談	市民協働課	男性の生き方相談	相談件数	163件	毎週月曜日 相談件数 173件 (電話)
		130	女性相談	こども家庭支援課	女性相談	-	-	相談員8人 相談件数 2,594件 (面接 511件、電話 2,083件) その内新規 668件
	男女共同参画の視点からの制度・慣行の見直しを行う	131	男女共同参画の意識の醸成のための各種講座やイベント等の開催	市民協働課	講座等の開催	定員に対する参加人数の割合	90.0%	78.0%(全体の割合の合計) ①DVDミニ鑑賞会 各回定員10人 計44回(総定員440人) 参加者総数365人 83.0%(各回の割合の平均) ②市民企画講座 137.5%(各回の割合の平均) ・人生100年時代の資産形成 定員30人 参加者36人(120.0%) ・「子育ては罰ゲームか?」～親子に冷たい日本社会を変えるために～ 会場定員15人 参加者22人(会場参加10人、オンライン参加12人) (オンラインの定員の定めがないため参加率は算出せず) ・セルフケア養生レッスン 一身体、呼吸、心を調えますー 定員40人 参加者62人(155.0%) ③女性のための「交流サロン」 各回定員8～10人 計12回(総定員108人) 参加者総数69人 63.9%(各回の割合の平均) ④女性のための「ゆるっとサロン」 各回定員8人 計12回(総定員96人) 参加者総数47人 49.0%(各回の割合の平均) ⑤一時保育付き読書タイム 各回定員5人 計12回(総定員60人) 参加者総数34人 56.7%(各回の割合の平均)
		132	男女共同参画の意識の醸成のための情報誌・リーフレット等の配布	市民協働課	情報誌等の配布	回数	5回	5回 ・情報誌「fえふ」 18,000部 ・ハンドブック「DVのない社会を目指して」 1,300部 ・人権ポケットブック「セクシャル・マイノリティと人権」 6,000部 ・デートDV防止啓発チラシ 6,000部 ・パートナースhip・ファミリーシップ制度周知用チラシ 5,500部(うち、R5年度に1,900部配布)
		133	市の刊行物における男女共同参画の視点に配慮した表現の周知	市民協働課	市の刊行物への配慮した表現の周知	回数	1回	1回 市職員が閲覧可能なファイルサーバーに「男女共同参画の視点からの公的広報の手引」を格納し、男女共同参画の視点に配慮した表現を常時確認できるようにした。また、各課からの問い合わせに対して個別に対応を行った。
		134	リプロダクティブ・ヘルス／ライツについて学習機会を提供する	市民協働課	講座等の開催	定員に対する参加人数の割合	90.0%	126.7% 心と体をほぐす体操付き更年期講座 定員30人 参加者38人
男女共同参画に関する教育・学習の機会の充実	教育の場における男女共同参画推進のための意識の醸成を図る	135	人権教育・啓発活動の促進	指導課	人権教育・啓発活動の促進	実施校の割合	100%	100% 全校に人権教育担当者をおき、人権教育の全体計画を作成した。人権教室、人権の花運動、人権作文、それに関わる講演会等も実施できた。 県から送付される「学校人権教育指導資料43集」を配布し、教職員にも啓発を図れた。
		137	教職員を対象としたキャリア教育についての研修	総合教育センター	教職員対象キャリア教育研修	アンケートによる満足度調査	97.0%	97.0% 3,030人中2,939人が「満足した」と評価した。
		139	図書館資料の提供を通じた学習機会の充実	西図書館	男女共同参画に関する資料の展示	実施回数	4回(4館で年1回ずつ実施)	4回(男女共同参画に関する図書展示を4図書館で実施) 【西図書館】 テーマ:「自分ってなんだろう」(ジェンダー関連図書) 期間: 令和5年8月1日～8月31日 【中央図書館】 テーマ:「すべての人が働きやすい社会～男女共同参画～」 期間: 令和6年3月14日～4月11日 【東図書館】 テーマ:「女性の社会進出」 期間: 令和6年2月9日～2月29日 【北図書館】 テーマ:「ジェンダー平等を実現しよう」 期間: 令和5年6月1日～6月30日

【☆男女共同参画に配慮した項目☆】

- 1 男女の個人としての尊厳を重んじ、男女の差別を無くすことに配慮した
- 2 固定的性別役割分担意識や性による無意識の思い込みが男女の社会参加に影響しないよう配慮した
- 3 男女が政策、方針又は事業の企画立案及び決定に共同して参画する機会に配慮した
- 4 家族を構成する男女が家庭生活との両立ができるように配慮した

【○方策の観点からの自己評価○】

- A 効果があった
- B+ ほぼ効果があった
- B ある程度効果があった
- C あまり効果がなかった

資料5

☆項目	○自己評価	評価した理由	今後の課題・予定	今後の進め方	令和4年度実績[前年度]
1	B+	相談件数も増加傾向にあり、多くの相談者の一助となったため。	令和5年度からは、第3水曜日から毎週水曜日に増枠して対応したため相談件数の増加につながった。今後も事業を継続していく。	継続	毎週金曜日、第3水曜日 相談件数 243件 カウンセラー 2人(予約制、面接・電話)
1	A	相談件数も増加傾向にあり、多くの相談者の一助となったため。	今後も相談者に寄り添った相談事業を継続する。また、一人でも多くの相談者に周知できるよう、今後も継続して周知活動を行っていく。	継続	毎週月曜日 相談件数 143件 カウンセラー 3人(電話)
1	A	DVをはじめ、あらゆる問題を抱えた女性の相談に対応するため、研修の参加や他機関との会議開催等を行い、相談者の意思を尊重した支援とは何かについて考え、相談者の意思を尊重した支援を実施することができたことから、十分効果があったと考えている。	困難な問題を抱える女性への支援に関する法律によって、他機関からの情報提供や相談が増えると予想されるため、支援をたらい回しにせず、他機関と協働しながら相談者の意思を尊重した支援を継続していく。	継続	相談員8人 相談件数 2,374件 (面接 443件、電話 1,931件) その内新規 622件
1,2	B+	全体として目標を達成することはできなかったが、講座によっては、定員を超える参加者に受講していただくことができ、男女共同参画の意識の醸成ができたため。また、DVDミニ鑑賞会、交流サロン、ゆるっとサロン、一時保育付き読書タイムについては、船橋市男女共同参画センターで実施しており、同センターの周知につながったと考えるため。	講座等を通じて男女共同参画の意識醸成を図るために、今後も引き各種講座やイベント等の開催に努める。また、R6年度は映画上映会を開催する。	拡大	66.1%(全体の割合の合計) ①DVDミニ鑑賞会 各回定員10人 計38回 参加者総数282人 74.2%(各回の割合の平均) ②市民企画講座 88.6%(各回の割合の平均) ・終活セミナー「お元気なうちに これだけはやっておきたい老い支度」 定員30人 参加者1回目 34人(113.2%)/2回目 25人(83.3%) ・人生100年時代の新しい生き方 定員30人 参加者27人(90%) ・メディアで話題になった歴博の展示「性差(ジェンダー)の日本史」で伝えたかったこと 定員50人 参加者34人(68%) ③ゆるっとつながる「女性のためのよりそいサロン」 各回定員8人 計12回 参加者総数34人 35.4%(各回の割合の平均)
1,2,3,4	A	目標を達成することができ、男女共同参画の意識の醸成が進んだため。	今後も引き続き男女共同参画の意識の醸成のために、掲載内容について検討を重ね、一人でも多くの市民に手に取ってもらえるように努める。	継続	5回 ・情報誌「fえふ」 20,000部 ・ハンドブック「DVのない社会を目指して」 1,100部 ・人権ポケットブック「セクシャル・マイノリティと人権」 7,200部 ・デートDV防止啓発チラシ 2,400部 ・企業向けチラシ「多様性とLGBT施策」 2,400部
1,2,3,4	A	目標を達成することができたため。	今後も市職員に対して、男女共同参画の視点に配慮した表現の周知に努める。	継続	1回 市職員が閲覧可能なファイルサーバーに「男女共同参画の視点からの公的広報手引」を格納し、男女共同参画の視点に配慮した表現を常時確認できるようにした。また、各課からの問い合わせに対して個別に対応を行った。
1	A	目標を達成することができたうえ、申し込みが多数あり当初の定員を増枠して対応したため。	今後も、参加者のニーズに合わせて会場や開催時間帯を工夫することによって、1人でも多くの市民に学習機会を提供できるように努める。	継続	32.5% 月経痛・更年期のツラさは「しょうがない」？ -助産師に聞く！女性ホルモンの話-講座 定員40人 参加者13人
1,4	A	目標を達成できたため。	引き続き、人権教育の充実を目指していく。	継続	100% 全校に人権教育担当者をおき、人権教育の全体計画を作成した。 人権教室、人権の花運動、人権作文、それに関わる講演会等も実施できた。 県から送付される「学校人権教育指導資料42集」を配布し、教職員にも啓発を図れた。
1,2	A	目標を達成したため。	今後も、学校関係教職員のニーズを把握し、今日的教育課題をテーマにした魅力ある研修を企画・運営していく。	継続	96.1% 3,630人中3,490人が良の評価をした。
1,2	A	図書館資料を通じて利用者に男女共同参画の学習機会を提供することができた。	引き続き4図書館で年1回ずつ実施し、図書館資料を通じて多くの利用者に男女共同参画の学習機会を提供できるよう努める。	継続	2回 「ジェンダー」に関する図書展示を西図書館および北図書館で実施 実施期間： (北図書館)令和4年8月1日～令和4年8月31日 (西図書館)令和5年2月1日～令和5年2月28日